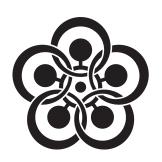
東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科年報

2018年度



はしがき

2018 年度は、保健衛生学研究科にとって激動の年となりました。共同災害看護学専攻は 完成年度を迎え、臨床検査学専攻は、保健衛生学研究科から医歯学総合研究科に移りました。 当該研究科は研究だけをおこなっているのではなく、大学院教育、学部教育も担い、次世代 の医療者を育成しています。特に、2018 年は多くの欠員が生じた中、みんなで教育に力を 注ぎました。そのため、残念ながら論文数は、非常に少なくなっています。

看護学は、医学とは異なり、非常に歴史の浅い学問分野です。発展中のため、医学を真似たり、踏襲すれば良いわけではありません。方法の開発が必要です。さらに、人を相手に研究をするため、西欧に遅れること半世紀、日本でも、人に焦点をあてた質的研究やアクションリサーチが行われるようになってきました。研究方法の前提でが、実証主義からプラグマティズム、構成主義へと移行してきているのです。

一方、医学系の研究において、トランスレーショナル・リサーチ(TR)が少ないことが問題視されてきています。人が生きていることや生きていくことを視野に入れた TR は、産業界と連携すれば大きな可能性を生み出していけるとも考えられます。今後にご期待ください。

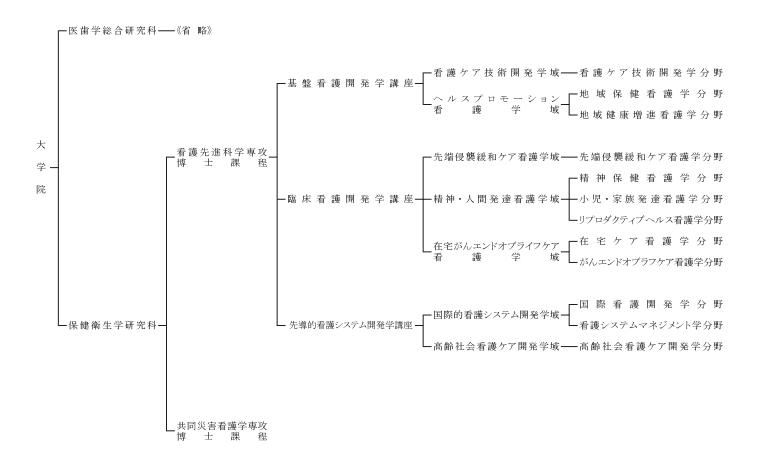
2020年3月吉日 東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科長 大久保功子

目 次

Ι.	機構図	1
II.	各教育研究分野における教育・研究	
	看護先進科学専攻	
	基盤看護開発学講座	
	看護ケア技術開発学域	
	看護ケア技術開発学分野	3
	ヘルスプロモーション看護学域	
	地域保健看護学分野	7
	地域健康増進看護学分野	11
	臨床看護開発学講座	
	先端侵襲緩和ケア看護学域	
	先端侵襲緩和ケア看護学分野	13
	精神・人間発達看護学域	
	精神保健看護学分野	16
	小児・家族発達看護学分野	21
	リプロダクティブヘルス看護学分野	24
	在宅がんエンドオブライフケア看護学域	
	在宅ケア看護学分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
	がんエンドオブライフケア看護学分野	30
	先導的看護システム開発学講座	
	国際的看護システム開発学域	
	国際看護開発学分野	33
	看護システムマネジメント学分野	36
	高齢社会看護ケア開発学域	
	高齢社会看護ケア開発学分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	38
	共同災害看護学専攻	44
${\rm I\hspace{1em}I}$.	2018年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表	48
IV.	2018年度大学院保健衛生学研究科博士(前期·後期)課程学位論文題目一覧表 ············	51
V.	委員会委員名簿	54
VI.	就職状況一覧表 (2019年3月卒業・修了者)	56

I. 機 構 図

東京医科歯科大学大学院機構図(2018年4月1日)



Ⅱ.各教育研究分野における教育・研究

看護ケア技術開発学

Innovation in Fundamental and Scientific Nursing Care

教 授 柏木聖代

助 教 大黒理惠(~2018.12.25 まで育児休暇)

大河原知嘉子

戸田あゆみ (~2018.12.25 まで育休代行)

大学院生

博士後期課程 前田耕助 5年一貫制後期課程 樺島稔

(1) 分野概要

看護ケア技術は看護専門職者が習得した有形・無形の技であり、対象の全人的なアセスメントに基づいて個々に提供されます。看護ケア技術の中には、その有効性がすでに検証され、社会に広く還元されているものもありますが、多くは個人の経験に基づく暗黙知のまま体験と共に伝承されてきており、看護ケアのプロセスの可視化や有効性の検証は進んでいない現状にあります。この現状を改善すべく、ヘルスサービスリサーチ等の学際的研究手法を用いた看護ケアの質に関する実証研究に積極的に取り組んでいます。

そして, これらの研究成果を世界に発信することを通じて, 質の高い看護ケアが必要な人に提供される社会の実現を目指しています。

(2) 研究活動

1)ナーシング・ヘルスサービスリサーチ(看護ケアの質の評価)

全国の医療・介護レセプトや国・自治体の調査等の大規模データを活用し、病院・施設・在宅等における看護ケアの質(インプット・プロセス・アウトカム)に関する様々な実証研究に取り組んでいる。

2) 看護師の現任教育の課題と教育力育成

看護実践能力や看護師がもつ教育力の特徴をテキストマイニングにより明らかにするとともに、質的 · 量的研究を統合した混合研究法により看護実践力や教育力育成のための課題と具体的方法について検討している。

3) 看護技術の科学的検証

日常生活技術の効果を心拍変動、脳血流量等の生理的反応や心理的反応から検証し、その成果をエビデンスとする看護技術の開発に取り組んでいる。

4) 看護実践の可視化 知識ベースの開発

優れた看護実践の可視化を目指し、看護実践に関する看護師の集合知を形成し、科学的に解明するための方法論の検討を行っている。

(3) 教育活動

学部教育では、1年生と2年生を対象に基礎看護学を担当している。看護学の基盤となる理論、専門職業人としての態度、看護学に共通した援助技術修得に必要な知識・技能を教授している。また、4年生には、当分野での卒業

研究を選択した学生を対象に、講義、ゼミ形式、個別指導など多彩な教育方略を用いて学生の指導に当たっている。

大学院では、院生の主体性を尊重してテーマを精選し、学位論文としての意義と研究の進捗に対して、分野の 全院生が参加する研究ゼミと、教員による個別指導を効果的に組み合わせて実施している。

(4) 教育方針

1) 学部教育

学部教育では基礎看護学を担当し、アクティブ・ラーニングの技法を積極的に取り入れ、看護専門科目の知識、態度、技能形成の基盤づくりを行った。

1年次には専門科目の基礎看護学 I および基礎看護学実習 I を開講した。基礎看護学 I は看護の共通基盤である看護の概念・目的など看護観形成の基礎となる知識を習得し、看護が対象とする人々への理解を深めることを目指した。基礎看護学実習 I は医学部附属病院において行い、専門科目の学習初期段階において、医療の現場を知り健康障害をもった人々と直接関わることで、看護の機能と役割への理解することを目指した。

2年次は、基礎看護学Ⅱ、基礎看護学Ⅲ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱおよび基礎看護学実習Ⅱを開講した。講義と演習を通じ看護を実践し、探求する能力を習得し、発展させるための知識・技術の習得を目標とした。ここでは看護技術の原理および根拠を理解することに重点を置き、看護職者としての知識・技能・態度の形成と主体的学習態度の形成を目指した。また、基礎看護学実習Ⅱでは、看護過程の展開を理解するとともに、日常生活援助を通して「健康とは」、「看護とは」を考え、医療人としての態度や責務、倫理観を学ぶことに重点を置いた。

4年生の卒業研究では、学生の興味のある研究テーマを支持しながら、研究方法と論文の書き方および発表の 仕方について指導した。学内での発表にとどまらす、学会発表、学術誌への論文投稿できるよう指導を行なって いる。

2) 大学院教育

看護ケア技術開発学特論 A·B,および看護ケア技術開発学演習 A·B,看護ケア技術開発学特論,特別研究 Ⅰ・Ⅱを担当した。

大学院教育では、全ての対象の看護に共通する看護技術の生体への効果、および効果を高める看護方法の開発を目指し、経験的に実施されてきた看護方法の科学的根拠を探求した。また、基礎看護学領域の研究方法論の確立のために、さまざまな研究方法を取り入れ、特に看護学に関連する他分野の研究方法を学び、看護基礎科学としての研究と学際的視点に立った研究を目指した。

(5) 臨床活動および学外活動

研究支援

医学部附属病院看護部と連携し、研究支援や共同研究を行っている。また、他大学との共同研究や地域の病院 等との共同研究や研究支援を行っている。

(6) 研究業績

原著

- 1. 柏木聖代. 特別養護老人ホームにおける看護職の役割 日本臨牀. 2018; 76(増刊 7); 726-728
- 2. Ayako Nishimura, Rie Daikoku, Chikako Okawara, Yayoi Saito. Effect of demonstrating situation awareness on nurses' gaze and judgment in a computer-based task for enwironmental management: a randomized controlled trial お茶の水看護学雑誌. 2018.03; 12(1·2); 1-15
- 3. 斉藤訓子, 柏木聖代. 自治体の指導監督担当者による訪問看護ステーションの現状認識と質的評価の視点 日本プライマリ・ケア連合学会誌. 2018.09; 41(3); 118-124
- 4. 杉本健太郎, 柏木聖代, 齋藤訓子. 新規開設した訪問看護事業所における地域に対する取り組みの実態とその 関連要因 日本在宅看護学会誌. 2018.11; 7(1);
- 5. 森岡 典子, 大河原 知嘉子, 緒方 泰子. 東京都の小規模訪問看護事業所における教育・研修の特徴 テキストマイニングを用いた混合研究法 日本看護科学学会学術集会講演集. 2018.12; 38 回; [O24-3]

書籍等出版物

1. 大河原知嘉子, 齋藤やよい 他(分担執筆)/香春知永, 齋藤やよい 編. 基礎看護技術 改訂第3版. 南 江堂、2018.02

総説

1. 瀬戸 菜月, 川崎 翔太, 前田 夏咲, 西川 裕理, 山縣 千尋, 戸田 あゆみ, 廣山 奈津子, 長尾 祥子, 田村 貴子, 深 堀 浩樹. Evidence Based Practice のための入院患者へのせん妄ケアに関する文献検討 看護技術. 2018.05; 64(6); 81-87

[講演 口頭発表等]

- 1. 大河原知嘉子. 教育的役割を担う看護師の教育力の形成に関連する要因 テキストマイニングを用いた分析. 第8回日本看護評価学会学術集会 2018.03.06 東京
- 2. 長井聡子、湯本淑江、大河原知嘉子、森岡典子、緒方泰子. 中堅看護師のワークエンゲイジメントを高める 要因の傾向 —インタビュー調査より—. 第8回 日本看護評価学会学術集会 2018.03.06 東京都
- 3. 柏木聖代. 訪問看護師のキャリア開発とは. 東京都訪問看護ステーション協会会員総会 · 特別講座 2018.05.26 東京都
- 4. 柏木聖代. キャリアラダーの基本的な考え方. 東京都訪問看護ステーション協会研修会 2018.08.04 東京都
- 5. 柏木聖代. 訪問看護師のキャリア向上を図る教育体制づくり. 日本地域看護学会第 21 回学術集会 2018.08.12 岐阜県
- 6. 大河原知嘉子,森岡典子,緒方泰子. 訪問看護事業所の規模別にみた教育体制の実態-東京都の訪問看護事業 所における研修内容に着目して-. 第4回日本混合研究法学会年次大会 2018.09.30 千葉県
- 7. 井津井康浩, 北畑富貴子, 岡田英理子, 高橋誠, 大河原知嘉子, 田中雄二郎. 臨床研修医が求める理想の指導医像. 第7回日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック地方会 2018.11.18 千葉県
- 8. 清水準一, 其田貴美枝, 原口道子, 西崎未和, 柏木聖代, 川村佐和子. 在宅看護実習に特有な学生のつまずきに着目した教育を考える. 日本在宅看護学会 2018.12
- 9. 森岡典子, 大河原知嘉子, 緒方泰子. 東京都の小規模訪問看護事業所における教育 · 研修の特徴 ~ テキストマイニングを用いた混合研究法 ~. 第 38 回日本看護科学学会学術集会 2018.12.15 愛媛

[社会貢献活動]

- 1. 東京医科歯科大学歯学部附属病院看護部看護研究指導(大黒理惠), 2008年04月01日-現在
- 2. 神奈川県立保健福祉大学非常勤講師(大黒理惠), 神奈川県立保健福祉大学, 2012年04月01日-現在
- 3. 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部臨床連携教員(大黒理惠), 東京医科歯科大学, 2013 年 04 月 01 日 現在
- 4. 東京医科歯科大学医学部附属病院看護部臨床連携教員(大河原知嘉子), 東京医科歯科大学, 2014 年 04 月 01 日 現在
- 5. 茨城県訪問看護推進協議会委員(柏木 聖代), 2015年07月-現在
- 6. 東京都訪問看護ステーション協会顧問(柏木 聖代), 2015年07月01日 現在
- 7. 日本在宅看護学会 理事(柏木 聖代), 2015年09月-現在
- 8. 日本医療·病院管理学会 事業委員会(柏木 聖代), 2016 年 05 月 現在
- 9. なるほどテキストマイニング (大河原知嘉子), 医学書院, 看護研究, 2016 年 12 月 15 日 現在
- 10. 三菱東京 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 厚生労働省平成 29 年度老人保健健康増進等事業「特別養護老人ホームにおける看護職員の役割等に関する調査研究事業」調査検討委員会委員長(柏木 聖代), 2017 年 06 月 2018 年 03 月

- 11. 日本看護協会 厚生労働省平成 29 年度老人保健健康増進等事業「地域包括ケアシステムにおける訪問看護の新たな人材確保・活用に関する調査研究事業」検討委員会委員(柏木 聖代), 2017 年 08 月 2018 年 03 月
- 12. 東京都訪問看護ステーション協会 顧問(柏木 聖代), 2017年08月-現在
- 13. 日本混合研究法学会 編集委員 (大河原知嘉子), 2017年12月01日-現在
- 14. テキストマイニングによる看護研究 ~ 実践事例より ~ (大河原知嘉子), 株式会社 NTT データ数理システム, Text Mining Studio アカデミックセミナー, 2018 年 01 月 19 日
- 15. 第 4 回日本混合研究法学会年次大会 実行委員(大河原知嘉子),順天堂大学医療看護学部,2018 年 03 月 01 日 2018 年 08 月 31 日
- 16. 日本看護協会 介護施設等に勤務する看護職の働き方検討ワーキンググループ委員(柏木 聖代), 2018 年 04 月 - 2019 年 03 月
- 17. 茨城県訪問看護推進協議会委員(柏木 聖代), 2018 年 04 月 01 日 2019 年 03 月 31 日
- 18. 日本混合研究法学会 事務局 (大河原知嘉子), 2018 年 04 月 01 日 現在
- 19. 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻非常勤講師「高齢者在宅長期ケア看護学特論 I 」(柏木聖代), 2018 年 05 月 24 日
- 20. 日本在宅看護学会 編集委員会委員長(柏木 聖代), 2018年06月-現在
- 21. 日本医療 · 病院学会事業委員会委員(柏木 聖代), 2018年06月06日-2020年06月06日
- 22. 日本在宅看護学会理事(柏木 聖代), 2018年06月09日-2020年
- 23. 日本看護協会「訪問看護の人材確保に関する検討委員会」委員(柏木 聖代), 2018 年 06 月 20 日
- 24. 日本看護協会「介護施設等に勤務する看護職の働き方検討ワーキンググループ」委員(柏木 聖代), 2018 年 06 月 22 日 2019 年 03 月 31 日
- 25. 日本看護協会 訪問看護の人材確保に関する検討委員会委員(柏木 聖代), 2018 年 07 月 2019 年 03 月
- 26. 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 厚生労働省平成 30 年度老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金)「特別養護老人ホーム等における看護体制強化のための調査研究事業」調査研究委員会委員長(柏木 聖代), 2018 年 08 月 2019 年 03 月
- 27. みずほ情報総研株式会社 厚生労働省平成 30 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別委員会(柏木 聖代), 2018 年 08 月 2019 年 03 月
- 28. 厚生労働省平成 30 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査に係る調査検討委員会委員(柏木 聖代), 2018 年 08 月 - 2019 年 03 月
- 29. 茨城県訪問看護ステーション機能強化事業運営委員会委員(柏木 聖代), 2018 年 08 月 2020 年 03 月
- 30. 東京都訪問看護ステーション協会「キャリアラダーの基本的な考え方」講師(柏木 聖代), 2018年08月04日
- 31. 厚生労働省平成 30 年度老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金)「特別養護老人ホーム等における看護体制強化のための調査研究事業」調査研究委員会委員長(柏木 聖代), 2018 年 08 月 06 日 2019 年 03 月 31 日
- 32. 日本地域看護学会特別講演「訪問看護のキャリア」講師(柏木 聖代), 2018 年 08 月 12 日
- 33. 看護研究のためのテキストマイニング(大河原知嘉子), 福井大学大学院, 看護キャリアアップセンター看護 実践能力開発講座, 福井大学, 2018 年 09 月 02 日
- 34. 東京都訪問看護ステーション協会「訪問看護キャリアラダー研修・管理者編」講師(柏木 聖代), 2018 年 09 月 22 日
- 35. 独立行政法人大学改革支援 · 学位授与機構学位審査会専門委員(柏木 聖代), 2018 年 10 月 01 日 2020 年 03 月 31 日
- 36. 東京都訪問看護ステーション協会「実習指導者研修」講師(柏木 聖代), 2018 年 11 月 24 日
- 37. 茨城県看護協会「訪問看護ステーション機能強化事業運営委員会」委員(柏木 聖代), 2018 年 12 月 11 日 2020 年 03 月 31 日

教

授

地域保健看護学

Community Health Nursing

助 教 津田 紫緒 技術補佐員 久保田 米子 高橋 知子 小野 かおり 大学院生 金屋 佑子

佐々木 明子

(1) 分野概要

地域保健看護活動の専門的な知識・技術を習得し、地域で生活する人々の健康の保持・増進と質の高い生活に寄与するための教育を行っている。また、地域保健看護学の実践を発展させ、その有用性を検証するための開発的な研究を行っている。

さらにフィンランド、スウェーデンなど北欧などをはじめとする外国の教育者 · 研究者 · 実践者との交流を通し、国際社会に適応できるアカデミックマナーを習得して、日本国内のみならず、国際的に活躍できる地域保健看護学分野の教育者、研究者、実践者の育成をする教育と研究を行っている。

これらの教育 · 研究活動を通して、地域の人々を尊重し、人々の健康と質の高い生活に貢献していくことを目指している。

(2) 研究活動

本分野における研究課題は地域保健看護学の実践的な課題解決または改善の方策、新しい課題に対する地域保健看護活動方法の開発と評価および理論構築である。具体的研究内容は以下に示すとおりである。

- 1. 個人、家族、グループ、地域に対する地域保健看護活動の理論と実践
- 2. 地域診断、健康教育、介護予防、訪問指導、地区組織活動、産業保健活動の展開方法
- 3. 地域保健活動の施策化、社会資源の活用と開発
- 4. 地域保健看護活動の事例分析などによる評価
- 5. 地域における看護実践やサービス提供システムの国際比較研究などである

主に行った研究テーマは、1. 高齢者の連想法に関する研究、2. 地域看護職者による高齢者全数の予防訪問の実施方法と効果、3. 高齢者に対する介護予防プログラムの評価に関する研究、4. 高齢者の看取りにおける看護職への教育プログラムの開発、5. 医療保険者における保健師の活動に関する研究、6. 産業保健における包括的支援に関する研究等であった。

これらの研究のために国内では九州地方、東北地方、東海地方および関東地方の市町村及び高齢者施設等と研究における連携を深めた。また、関東地方の事業場、医療保険者等との研究体制の整備し、調査実施、適宜情報共有の場を設け、フィンランドセイナヨキ応用科学大学、タンペレ大学にて共同研究の検討を行った。

学部学生は、「特定保健指導対象者の行動変容維持に向けた保健師による支援」(平成30年度、石田千明)、「職

域での認知症サポータ―養成の意義と行政保健師の役割」(平成30年度、大杉成美)、「メンタルヘルス不調者の復帰支援における産業保健師の家族との関わり」(平成30年度、川崎紗英)、「地域のうつ病に関わる当事者グループの活動と専門職者の役割・今後期待される支援」(平成30年度、坂上舞)、「保健師による在日中国人母子への支援とその困難」(平成30年度、野澤志穂)というテーマで卒業研究をまとめた。

大学院生は「地域在住高齢者における介護予防活動の評価」(平成 30 年度、金屋佑子)、「妊娠中に禁煙した母親の産後再喫煙を防ぐ要因の検討」(平成 30 年度、板井麻衣)、「訪問看護師の実施する認知症高齢者へのアセスメントと評価の視点の明確化」(平成 30 年度、田沼寮子)、「小中学生の子を養育する成人女性の健康に対するセルフケアの現状と課題」(平成 30 年度、異夕起)、「対人支援を行なう行政保健師の感情労働の特徴」(平成 30 年度、本田順子)、「終末期における高齢者とその家族の訪問看護師による意思決定支援」(平成 30 年度、木村光佑)「地域の高齢統合失調者患者に対する家族による虐待について」(平成 30 年度、木村佳菜)というテーマについて研究を行っている。大学院生の研究を実施するにあたり、関東地方、東海地方、関西地方等の市町村及び地域包括支援センターの協力を得た。

(3) 教育活動

1) 学部教育

主に地域保健看護学Ⅰ、地域保健看護学Ⅱ、地域保健看護学Ⅲ、地域保健看護学演習、地域保健看護学実習、卒業論文を担当している。

関連科目と連携をとりながら授業を展開し、学生のより深い習熟をめざして、学内における講義および演習と実習を相互に連動させながら、地域保健看護活動の理論と実践と研究の統合を目指して教育をしている。

平成30年度の学部学生の実習は、地域保健として東京都特別区の文京区(保健サービスセンター、保健サービスセンター本郷支所)、足立区(東部保健センター、江北保健センター、竹の塚保健センター)、墨田区(向島保健センター、本所保健センター)、台東区(台東保健所、浅草保健センター)、葛飾区(青戸保健センター)の5区(10ヵ所)で行った。東京都特別区外の地域保健では、東京都八丈町、千葉県船橋保健所、神奈川県秦野市、埼玉県越谷市、群馬県前橋市、渋川市、吾妻郡東吾妻町、吾妻郡嬬恋村、長野県北進保健福祉事務所、長野市、千曲市、下高井郡野沢温泉村、新潟県上越市、静岡県三島市で実習を行った。学校保健として筑波大学附属小学校、お茶の水女子大学附属小学校、また、産業保健として株式会社保健同人社、株式会社JALグランドサービス、キヤノン電子株式会社、日本航空株式会社、横河レンタ・リース株式会社、株式会社日立製作所、トッパングループ健康保険組合、株式会社ニコン、ソニー生命保険株式会社で実習を実施した。

2) 大学院教育

主に地域保健学特論 A、地域保健看護学演習 A、地域保健看護学特論、特別研究 I、特別研究 Iを担当している。 行政機関や事業所における地域保健看護活動に重点をおき、地域保健看護活動の計画・実践・評価ができる専門 的な知識および技術、地域保健看護学の実践への有用性を検証する開発的な研究に取り組めるように教育を行っ た。さらに、大学院生が国際的な教育、研究、実践活動に参画する機会を提供した。

(4) 教育方針

1) 学部教育

学部教育では保健所、市町村保健センターなど行政機関や事業場などの地域保健看護活動について、制度、法的根拠を理解すると共に、地域の保健看護ニーズのアセスメント、計画、実施、評価と保健看護活動の具体的な展開方法について総合的に学べることを目指して教育を行っている。人々の健康を保持増進する支援を行うために、人々の生活とそれを取り巻く社会環境を含めて捉える視点を養っている。

2) 大学院教育

- (1)教育研究領域は行政機関や事業場における地域保健看護活動に重点をおき、地域保健看護活動の計画・実践・評価ができる専門的な知識および技術、地域保健看護学の実践への有用性を検証する開発的な研究に取り組めるように指導する。学内における講義・演習・実習、学内外における研究会への参加、学会発表、フィールドワークをとおして地域保健看護学分野における高い実践力と教育・相談・研究能力を修得する。各自の研究課題は地域保健看護学の実践場面に参加して実用可能性を含めた検討を行い、独創的かつ有用な成果を得られるものとなるよう指導する。大学院生は、各自の関心にそって研究テーマを選び、新たな地域保健看護技術や地域保健看護活動の展開方法・地域保健看護システムの開発と地域保健看護学の理論の構築を含めて、研究を進めている。
- (2) 大学院保健衛生学研究科の提携大学であるフィンランドのセイナヨキ応用科学大学の他、教員が研究交流を行っているスウェーデン等の大学・実践機関等との連携により、滞在型の研修・研究を行う機会を設けている。
- (3) 国内外の地域保健医療福祉に関連する専門職者との共同プロジェクト研究のうち、学生の関心によりテーマを選択し、研究・実践能力を修得して、独創的な研究を行う機会を提供している。
- (4) 国内外の学会、外国人研究者の招聘セミナーや国際共同研究の参加、国内外学術雑誌への発表などの積極的な活動を学生に奨励し、指導し、発表を行っている。

(5) 国外の大学・実践機関の研究者、専門識者との積極的な交流を大学院生に奨励、指導している。

(5) 研究業績

原著

- 1. 青木利江子, 森田久美子, 小林美奈子, 山本晴美, 呂暁衛, 永嶺仁美, 佐々木明子. 学童保育における地域特性に合わせた世代間交流プログラムの実施と課題 日本世代間交流学会誌. 2018.02; 7(1); 23-32
- 2. Sekinaga Nobuko, Hirota Mikiko, Takemi Yayoko, Tatsumi Yuki. HMV exercise for nursing students $2018.03;\ 16;\ 47-52$

[講演 口頭発表等]

- 1. 巽夕起,前川寿子. 医療系の進路を希望する高校生における保健師の認知度. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会2018.01
- 2. Shio TSUDA, Hisae NAKATANI, Akiko KANEFUJI, Mari KARIKAWA. Family Nursing Approaches in Occupational Health Nursing: A Literature Review. The 32nd International Congress on Occupational Health 2018.04.29 Dublin, Ireland
- 3. 巽夕起,前川寿子. 大学生のロコモティブシンドロームの現状. 日本地域看護学会第 21 回学術集会 2018.08
- 4. Hisae Nakatani, Shio Tsuda, Akiko Kanefuji, Mari Karikawa, Uiko Nakata . Skill of Occupational Health Nurse to Intervenes to Support Health Crisis for Workers and Families: A Literature Review. 7th World Congress of Clinical Safety 2018.09.07 Bern, Switzerland
- 5. KazumiAdachi, Yuki Tatsumi, Junko Miyamoto, Satoko Mizohata, Yasuko Tamura, Eiko Yamada, Toshiaki Aiba. The Study of Disaster Preparation for Foreign Travelers at Japanese Accommodation. The 5th World Society of Disaster Nursing 2018.10
- 6. KazumiAdachi, Yasuko Tamura, Junko Miyamoto, Yuki Tatsumi, Toshiaki Aiba, Eiko Yamada, Satoko Mizohata. Disasterpreparedness needs of accommodation facilities for foreign tourists in Japan. 2018.10
- 7. 巽夕起, 志野泰子, 前川寿子. A 市の成人女性の抑うつ傾向の実態. 第77回日本公衆衛生学会総会2018.10
- 8. 巽夕起. 訪問看護ステーションにおける事業継続計画 (BCP) に関する文献レビュー. 2018.10
- 9. 中山かおり,佐々木明子,田沼寮子,森田久美子.発達障害児の保護者への個別育児支援プログラムのプロセス評価-「子どもをほめる」-.第77回日本公衆衛生学会 2018.10.25 福島
- 10. 金屋佑子,森田久美子,佐々木明子. 地域診断に関する効果的な教育方法の検討. 第77回日本公衆衛生学会2018.10.25福島
- 11. 佐々木明子,森田久美子,小野ミツ,浅尾晋也,北東美枝,中山かおり,田中敦子,田沼寮子. 高齢者の予防訪問におけるアセスメントの項目.第77回日本公衆衛生学会2018.10.26福島
- 12. 田沼寮子,佐々木明子. 小児在宅ケアに関する訪問看護師の課題の明確化と教育プログラムの検討. 第77回日本公衆衛生学会 2018.10.26 福島
- 13. 安達和美, 宮本純子, 溝畑智子, 田村康子, 相羽利昭, 巽夕起, 山田英子. 日本を訪問する外国人旅行者の 災害への備えに関する研究. 第 38 回日本看護科学学会学術集会 2018.12

受賞

1. The 2nd best poster, 2018年10月

[社会貢献活動]

- 1. 日本高齢者虐待防止学会評議員 佐々木明子, 日本虐待防止学会, 2009年07月01日-現在
- 2. 日本高齢者虐待防止学会研究推進委員会委員 佐々木明子, 日本虐待防止学会, 2009年07月01日-現在
- 3. 日本在宅ケア学会 査読委員 佐々木明子, 日本在宅ケア学会, 2012年04月01日-現在
- 4. 日本在宅ケア学会実践教育研究助成金委員会委員 佐々木明子,日本在宅ケア学会,2013年04月01日-現在
- 5. 日本在宅ケア研究所倫理審査委員会委員 佐々木明子, 2013年04月01日 現在
- 6. 日本在宅ケア学会評議員 佐々木明子, 日本在宅ケア学会, 2015年04月01日 現在
- 7. 日本高齢者虐待防止学会 研究活動 · 国際活動推進委員会 国際活動推進委員会副委員長 佐々木明子, 2015 年 04 月 01 日 現在
- 8. 日本公衆衛生学会代議員 佐々木明子, 日本公衆衛生学会, 2017年07月01日-現在
- 9. 日本看護科学学会 和文誌選任查読委員 佐々木明子, 2017年10月01日-現在

地域健康增進看護学

Community Health Promotion Nursing

森田 久美子(准教授) 中野 愛子 (大学院生) 晴美 (大学院生) 山本 眞奈 (大学院生) 土肥 永嶺 仁美 (大学院生) 暁衛 (大学院生) 三村 祐美子(大学院生) 丸山 佳代 (大学院生) みか (大学院生) 保木 大竹 文 (大学院生) 紘子 (大学院生) 角田 花円 (大学院生) 庄司 文秀 (研究生) 包

(1) 分野概要

本分野における教育・研究の内容は、対象の年齢も活動の場も非常に多岐にわたります。幼少期から良い生活習慣を習得し、中高年期での高い健康レベルとQOLを維持できるようにするためにはどのような対策が必要か、それを保健医療福祉制度や公衆衛生、産業保健といった観点から学んでいきます。

健康教育では、正しい情報、知識を提供することも大切ですが、それ以上に健康教育を受けた対象者が行動変容を起こし、病気の予防・改善につながることが最も重要になります。そのために、どのような健康教育が効果的なのか、企画・実施・評価それぞれの段階で検証していくことを目標としています。

研究は、主として高齢者と子ども達との世代間交流や、地域 · 在宅で暮らす高齢者の介護予防、産業保健分野での 生活習慣病予防等に関する調査を行っています。

(2) 研究活動

最近の研究テーマは、「世代間交流プログラムの効果」です。高齢者と若い世代の交流が、以前に比べて非常に少なくなっている現在、高齢者と子ども達が交流を行うことにより、双方にどのような効果があるのかを明らかにすることを目的に調査を実施しています。また、共同研究として「予防訪問の有用性と効果的運用方法」「在宅高齢者の介入拒否事例の特徴と看護職者が果たす支援方法の解明」に関する調査の一部を分担して行っています。

(3) 教育活動

学部教育では、看護学専攻の専門共通分野に含まれる産業保健学、保健医療福祉制度論、健康教育学演習を担当しています。これらの科目は看護師国家試験、保健師国家試験の両方に出題される内容であり、また将来、医療職として働く際にも必ず知っておかなければならない知識・内容が詰まった講義となっています。本分野を選択した学生の研究テーマは、「女子大学生のボディイメージ、食行動、自尊感情の関連性」「大学生の食生活の現状と間食に関する意識」「子宮頸がん予防に関する意識調査」「臓器移植に関する紙面上の情報提供が与える認知度向上への効果」などさまざまです。研究については、出来る限り学生の主体性を尊重し、興味関心のあるテーマで研究が進められるようにサポートしています。

大学院教育では、健康寿命の延伸を目指して、日常の生活習慣が経年変化に与える影響を学際的に分析し、その基本的考え方と研究法を修得する、また健康教育技法について、国内外の文献を吟味し、企画から評価までの一連の流れを講義と討議により修得するということを目標としています。地域健康増進看護学特論・演習では、よりよい健康を目指して、人々が行動変容するために必要な支援は何かを考え、健康教育の企画から評価までの一連の流れを演習する、また、健康教育の理論や技術を学び、さまざまな対象、地域にあわせた健康教育を実践できる能力・研究方法を演習により修得することを目標としています。

(4) 研究業績

原著

- 1. 青木利江子, 森田久美子, 小林美奈子, 山本晴美, 呂暁衛, 永嶺仁美, 佐々木明子. 学童保育における地域特性に合わせた世代間交流プログラムの実施と課題 日本世代間交流学会誌. 2018.02; 7(1); 23-32
- 2. 永嶺仁美, 山本晴美, 森田久美子. 成人若年期にある労働者の糖尿病に関する知識と保健指導希望に関連する要因 日本健康医学会雑誌. 2018.04; 27(1); 9-16
- 3. Mana Doi, Hiroki Fukahori, Yumiko Oyama, Kumiko Morita. Factors associatee with depressive symptoms in patients with acute coronary syndrome undergoing percutaneous coronary intervention: A prospective cohort study Nursing Open. 2018.05;
- 4. 山本 晴美, 森田 久美子. 【わかりやすい感覚器疾患】 感覚器と感覚器疾患のトピックス 触覚 ヒーリングタッチ 日本医師会雑誌. 2018.06; 147(特別 1); S349-S350
- 5. 森田 久美子. 福祉の現場から 多様な世代が支え合う地域づくりの実現に向けて 地域特性を活かした世代 間交流プログラム 地域ケアリング. 2018.12; 20(14); 53-55

[講演 口頭発表等]

- 1. 金屋祐子、佐々木明子、森田久美子. 地域診断に関する効果的な教育方法の検討 視聴覚教材を通して学生 が学んだ内容から. 日本公衆衛生学会総会 2018.10 仙台
- 2. 佐々木 明子, 森田 久美子, 小野 ミツ, 浅尾 晋也, 北東 美枝, 中山 かおり, 田中 敦子, 田沼 寮子. 高齢者の予防訪問におけるアセスメントの項目. 日本公衆衛生学会 2018.10 仙台
- 3. 中山 かおり, 佐々木 明子, 田沼 寮子, 森田 久美子. 発達障害児の保護者への個別育児支援プログラムのプロセス評価 「子どもをほめる」. 日本公衆衛生学会 2018.10 仙台

受賞

1. 東京医科歯科大学やるき倍増プロジェクト ベストティーチャー賞, 東京医科歯科大学, 2018 年 10 月

社会貢献活動

- 1. 東京医科歯科大学医学部倫理審査委員会ピアレビュー委員会 委員, 2009 年 10 月 現在
- 2. 日本在宅ケア学会 査読委員, 2010年 現在
- 3. お茶の水看護学研究会 編集委員, 2010年 04月 現在
- 4. 日本公衆衛生学会 認定専門家, 2010年04月-現在
- 5. 日本在宅ケア学会 実践・研究助成委員会委員, 2012年11月-現在
- 6. 日本看護科学学会 查読委員, 2015年 現在
- 7. 日本世代間交流学会 編集委員, 2015年01月-現在
- 8. 日本地域看護学会 国際交流推進委員会, 2015 年 10 月 現在
- 9. 日本地域看護学会 查読委員, 2016年 現在

先端侵襲緩和ケア看護学

Critical and Invasive-Palliative Care Nursing

教 授 田中 真琴

准教授 川上 明希(育休中)

講師 早尾 弘子(育休代替 2018年7月1日から 2019年3月31日まで)

助 教 川本 祐子

大学院生(博士後期課程)石塚紀美、野口綾子

奥川 沙希、申 于定(左記 2 名は 2018 年 3 月 31 日まで)

(5年一貫制博士課程) 松井 憲子、畑中 佳子、藤田 和寿、染谷 彰

井上 徹治、岩下絵梨香、大脇那奈、小坂志保 蘆田 薫、八鍬 類子(左記 2 名は 2018 年 4 月から)

(1) 分野概要

先端侵襲緩和ケア看護学では、重篤期から回復期の患者や家族のケア、さらには慢性期のセルフマネジメント支援や緩和ケアといった多方面の研究課題に取り組んでいる。専門的看護支援のあり方を追求するとともに、研究成果の還元による看護の質向上、看護学の一層の充実をめざしている。教育においては、学部教育では成人看護学を担当し、大学院教育では、日本看護系大学協議会より認定を受けた「クリティカルケア看護高度実践看護師教育課程」として、臨床に貢献できる急性・重症患者看護専門看護師の教育にも尽力している。

(2) 研究活動

本分野では、以下の2つの主要なテーマについて取り組んでいる。

【先端・高度医療を受ける患者および家族に対する看護ケアの開発】

疾病や外傷、侵襲的治療によって生命危機状況にある患者の治療に伴う苦痛や不安を緩和し、患者や家族の QOL 向上を目指した様々な視点からの研究に取り組んでいる。侵襲的治療下にある患者について、療養プロセスにおける体験を構造化することや、治療成功・回復促進に関与する患者要因の探索、患者の治療や看護に携わる医療チームの連携や機能等に関する調査などを行っている。

【慢性的な健康問題を抱える患者および家族の主体的療養を促進するための研究】

慢性疾患を抱え不確かさを感じながら療養する患者や家族が、主体的に症状や生活をマネージメントしていけるよう、様々な視点からの研究に取り組んでいる。自己管理行動の阻害要因と促進要因の解明、受容や意思決定のプロセスの構造化、自己管理の実態やそれが疾患管理に与える影響の調査などを行っている。

(3) 教育活動

1) 学部教育

本教育研究分野は、学部教育では成人看護学を担当している。

カリキュラムの構成は、2年次での成人看護学 I (概論2単位)、成人看護学 II (各論2単位)、3年次前期の成人看護学Ⅲ(実践論1単位)と成人看護学演習(1単位)、そして集大成としての成人看護学実習 I (3単位)という、学生の学習進度と体験に応じた組み立てとなっている。

2年次では、講義を中心として成人看護学Ⅰ、Ⅱで成人期にある人々の理解と成人看護学の考え方、成人看護学としての看護のあり方の基本を学ぶ。

3年次前期では、成人看護学演習で実践に必要な知識と技術、態度の統合と、成人看護学Ⅲでは各専門領域(専門看護師、遺伝看護、HIV感染者ケア等)で活躍する第一人者による成人看護学の最新の実践論を学習する。3年次後期は臨地実習期間であり、本学医学部附属病院で3週間の領域別実習を行っている。実習は医学部附属病

院のほぼ全病棟にわたり、各病棟の看護管理者、臨床実習指導者との連携のもとにすすめている。実習最終日には4病棟合同の「まとめの会」を開催し、学生の学びを共有する場としている。まとめの会やカンファレンスは学生主体での運営を重んじ、責任感、主体性、協調性も涵養している。実習開始前の個々の学生の状況把握や、数回の個人面接も含めたきめ細かな指導で、学生の学習の質向上をめざしている。

4年次での卒業論文指導では、講義、ゼミ形式、個別指導と、多彩な教育方略を用いて学生の指導に当たっている。また卒業論文のゼミ生を中心に、就職相談・推薦等キャリア形成のための指導を行っている。

2) 大学院教育

看護実践に基づいた研究課題の発掘や方法論の開発をできる研究能力を養い、研究者・教育者としての資質を磨くことに重点を置き教育を行っている。加えて、高度実践者としてのクリティカルケア(急性・重症患者)看護専門看護師(CNS)の教育を行っている。専門看護師実習は、実習提携病院ならびに本分野の CNS 課程履修の修了生やクリティカルケア看護専門看護師が勤務する施設の協力を得て、クリティカルケア看護専門看護師育成のための先駆的教育に取り組んでいる。

研究論文作成指導では、学生個々の興味やテーマを尊重しつつ、研究論文としての意義と研究計画、研究実施 状況の意見交換と指導の場としての「論文ゼミ」と、院生一人一人への個別指導との組み合わせで教育の充実を 図っている。取り組んでいる論文テーマは、クリティカルケア・急性期・周手術期での看護ケアの洗練と質向上、 先端・高度医療における看護の役割、新たな治療を受ける患者の療養生活支援、急性期医療からの移行期、慢性期 における看護の役割など多岐にわたる。

(4) 研究業績

書籍等出版物

1. 川本祐子執筆·編集担当. 受療者医療保険学術連合会広報誌 受保連 NEWS 第7号. 2018.12

[講演 口頭発表等]

- 1. Yuko Kawamoto, Tomoko Inoue, Yoshiko Sasaki, Mitsue Maru, Rumi Maeda. Certified Nurse Specialists' Need for Expansion of their Discretion that Requires Law Revision: A Cross-Sectional Survey. 21th East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conferences 2018.01.11 Seoul, Korea
- 2. Shin W, Inoue T, Nakayama Y, Yokota T, Yoshino H, Tanaka M. Individual quality of life measure (SEIQoL-DW) and functional status in patients with Amyotrophic lateral sclerosis: a follow-up study. 21th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 2018.01.11 Koria
- 3. 小坂志保, 田中真琴. 腎移植患者の Frailty に関する研究の動向と今度の支援に対する検討. 日本臨床腎移植 学会第51回学術集会 2018.02.15
- 4. Saki Okugawa, Hideyuki Shimizu, Kentaro Hayashida, Yuko Kawamoto, Makoto Tanaka. Evaluating changes in Nutritional and active status among elderly patients after Transcatheter Aortic Valve Implantation. ISN FRONTIERS MEETINGS "Kidney Disease & Cardiovascular Disease" 2018.02.22 Tokyo
- 5. Shiho Kosaka, Masami Hamada, Masayuki Yamanouchi, Noriko Hayami, Akinari Sekine, Keiichi Sumida, Naoki Sawa, Junichi Hoshino, Yoshifumi Ubara. Evaluation of chronic kidney disease support decision making application (CKD-SDM app): study protocol of a randomized, controlled trial. ISN Frontiers 2018 2018.02.25
- 6. 申 于定, 井上 智子, 中山 優季, 横田 隆徳, 吉野 英, 田中 真琴. 筋萎縮性側索硬化症患者はどのように人工呼吸器装着を決めるか. 臨床神経学 2018.12.01
- 7. 小坂 志保, 田中 真琴. 腎移植患者におけるフレイルの研究の動向と支援の検討. 日本臨床腎移植学会雑誌 2018.12.01

受賞

1. メディカルスタッフ優秀賞, 日本臨床腎移植学会, 2018年 02月

[社会貢献活動]

- 1. 日本慢性看護学会 編集委員会委員, 2010 年 04 月 01 日 現在
- 2. CKD· 腎移植に関する勉強会, 2011 年 04 月 01 日 現在
- 3. 日本慢性看護学会 評議員, 2012年04月01日 現在
- 4. 一般社団法人受療者医療保険学術連合会 広報委員会 (川本祐子), 2013年08月21日-現在
- 5. 日本看護科学学会 査読委員, 2015年10月01日 現在
- 6. 日本看護系大学協議会 国際交流推進委員会委員, 2016年07月08日-現在
- 7. 一般社団法人日本看護系大学協議会 広報 · 出版委員会委員(川本祐子), 2017年 03月 14日 現在
- 8. 日本看護科学学会 理事 総務委員長, 2017年06月18日 現在

精神保健看護学

Mental Health and Psychiatric Nursing

 教
 授
 田上 美千佳

 准 教 授
 美濃 由紀子

非常勤講師 松島 英介

技術補佐員 竹内 香 (~2018年8月)

事務補佐員 野中 順子

大学院生(博士後期) 松浦 佳代 5年一貫博士課程 高濱 圭子

富川 明子 平岩千明

(1) 分野概要

心の健康づくりへの関心の高まりとともに、人々へのメンタルヘルス支援への必要性が指摘されている。また、精神保健福祉施策が見直され、長期入院精神がい者の地域移行を進めるための具体的方向性の提示や、精神病床の機能分化等が図られている。このように精神保健医療福祉を取り巻く状況は変化し、精神看護を専門とする看護師に求められる能力もこれまで以上に大きくなっている。すなわち、精神科領域への社会的ニーズは多様化し続け、精神看護の活動範囲や援助の対象者は飛躍的に拡大しつつある。

こうした状況を踏まえ、当分野では、精神疾患とその処遇に関する正しい知識を身につけ、社会が求める看護ニーズに応えられる精神科看護者の育成を目指すとともに、精神的な看護援助の原理と方法論の確立に向けた研究・教育を行っている。(学部・大学院教育)

また、当分野は日本看護系大学協議会より認定を受けた「精神看護専門看護師教育課程」であり、精神科領域での高い水準のケアならびにリエゾン精神看護師として臨床全体に専門的に貢献できる人材の育成にも力を注いでいる。

本研究分野の主な研究テーマは、精神疾患患者とその家族のケア、思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援、精神疾患患者の退院および地域生活促進、地域・学校保健・産業保健における精神保健問題の理解と支援、精神科医療・精神保健看護領域の質の向上、司法精神医学・看護学に関する研究等である。

(2) 研究活動

- 1. 精神疾患患者とその家族への支援
- 2. 思春期・青年期の精神保健問題のある人とその家族の支援
- 3. 精神疾患患者の退院および地域生活促進
- 4. 精神科医療・精神保健看護領域の質の向上に関する研究
- 5. 司法精神医学・看護学に関する研究

(3) 教育活動

当分野は日本看護系大学協議会より認定を受けた「精神看護専門看護師教育課程」であり、精神科領域での高い水準のケアならびにリエゾン精神看護師として臨床全体に専門的に貢献できる人材の育成にも力を注いでいる。2014年に認定の更新を行い、承認された。

(4) 教育方針

1) 学部教育

- 1. 看護心理学では、心のしくみと働きについて理解を深めると共に、健康上の問題を抱える人々に精神的な援助を提供する上で欠くことのできない基本的な知識、技術、態度を養うことを学習の目標とする。そこでまず、人格診断、心理測定、自己分析の方法を自分自身に適用してみる。さらに、日常的に体験しているストレスや生活習慣について吟味し、自分自身の心と身体を素材にして、健康と不健康、適応と不適応を区別できる判断力を磨く。また、リラクセーション技法、呼吸法等、心の健康の回復・維持・増進に有効と考えられる方法の一端を体験し、精神的な健康をめぐる援助について視野を広げる。こうした学習を通じて、セルフケア支援としての看護について基本的な考え方を身につける。
- 2. 精神看護学では、精神的な機能の障害を精神医学的な疾患論、病理学、診断学に基づいて評価する方法や、薬物療法、精神療法、芸術療法などによって回復をもたらす方法について学ぶ。また、精神医療システムの中で看護職が保健医療チームの一員として、それらの知識や方法を看護的援助に生かしながら、どのような役割をとっていく必要があるかについて考察を深める。
- 3. 地域精神看護学では、精神保健福祉をめぐる社会状況と制度やシステムについての理解を踏まえて、看護師が地域の社会資源を活用しながら、精神障がい者の地域生活の質の向上と社会参加の支援に向けて担うべき役割について学ぶ。
- 4. 精神看護学演習では、精神疾患患者の生活歴と疾患や生活障害との関連、精神医療の歴史や治療環境の成り立ちが精神疾患患者の処遇に及ぼす影響についての理解を深め、精神疾患患者への心理・社会・生物学的な諸局面を視野に入れた全人的理解の深化を目指す。さらには、援助的な対人関係技術の向上を通じて、精神疾患患者の回復、成長、自立を支援するために必要な方法と、その理論的な背景について学ぶ。
- 5. 精神看護学実習は、精神科病棟及び地域における精神科通所施設で行う。カンファレンスでは「看護場面の再構成法」のワークシートを活用し、入院患者との対人関係を振り返って自己理解を深めることを通じて精神看護の実践能力を高めると共に、地域に暮らす精神障害者の生活実態に沿った地域支援について学ぶことを目標とする。入院患者や通所者との対人関係を体験する中で、自己一致に基づく率直な自己表現の共有を通じて感情活用能力を高めることに加えて、セルフケア理論に基づいた看護過程を展開することを通じて、対象者の抱えている問題の明確化を図りながら援助関係を築いていく過程を重視している。

2) 大学院教育

- 1. 精神保健看護学特論 A-1 では、人々の精神状態や発達課題について判断するための基準や枠組みと共に、様々な年代や健康状態の人々に対する精神的援助を支える技術や方法とその理論的な背景について習得する。具体的には、精神医学的診断法や心理測定法、並びに精神医療法を始めとする様々な精神科治療の技術と方法の蓄積に学びながら、看護学独自の視点に基づく評価と援助の方法について修得する。
- 2. 精神保健看護学特論 A-2 では、精神的な問題をもつ人々とその家族に適切な看護的援助を提供する上で必要な内省技法、面接技法、グループワーク技法の理論的背景を学ぶと共に、精神保健看護学の分野における研究倫理、参加観察と質的研究の方法論について理解を深め、臨床家の問題意識に沿って研究課題を発見して明確化できる能力、ならびに研究成果を臨床の場で実践できる能力を修得する。
- 3. 精神保健看護学演習 A では、対人関係論、集団力動論の視点と方法論に則った看護事例検討会への参加とその振り返りを通じて、事例分析や看護評価の方法とその理論的背景、並びにグループによるスーパービジョン、コンサルテーションの実際を体験すると共に、個別のスーパービジョン、コンサルテーション、相談面接の理論と方法について習得する。
- 4. 精神保健看護学特論 B-1 では、精神保健福祉をめぐる社会状況と関連法規、社会制度の変遷について理解を深めると共に、看護師の視点から、現状の保健医療福祉システムが抱えている課題の克服に向けて、既存の制度や

社会資源を活用し、患者の自助活動と連携していくための方法論や、制度改革の必要性と方向性について学ぶ。

- 5. 精神保健看護学特論 B-2 では、司法精神医療、司法精神医学、司法精神看護学の現状と課題、並びに理論的、歴史的背景の検討を中心に、暴力等による自傷他害の行為の見られる精神疾患患者の回復と自立の促進に向けた早期介入や入院時の個別ケアと併せて、心理教育、認知行動療法、芸術療法等の集団療法や、患者の自助活動を重視する治療共同体的な実践の方法論について習得する。
- 6. 精神保健看護学演習 B では、精神疾患患者の病状や心理社会的状況に応じた看護契約、権利擁護、アメニティ向上のための方法論、並びに急性期・回復期の看護、リハビリテーション看護、家族看護、在宅看護ならびにそれらの活動の充実に向けた看護管理やチーム医療を支える理論と方法論について、講義と討議によって習得する。
- 7. 精神保健看護学実習では、急性期、慢性期、回復期等各期における様々な病態の精神疾患患者への看護的援助を実施した経験を核とし、それをあらゆる角度から分析・検討することを通じて、精神的健康に問題を持つあらゆる人々に対して専門性の高い看護的援助、及び援助者への援助を実践できる能力を身につけることを重視する。
- 8. 精神保健看護学特論では、精神的な看護援助の方法論的な確立に向けた看護的介入の実施・評価・教育を担い 得る能力を修得するとともに、治療的援助技法を活用した精神的な問題を持つ人とその家族への支援の実践を基 盤に、精神健康の質的向上と精神医療保健看護システムの変革に寄与し得る学際的な研究を行い、国内外の学術 誌に発表し、自立して研究できる能力を修得する。

(5) 臨床活動および学外活動

学部・大学院講義を公開講座にし、臨床・学外に門戸を開いている。 具体的には、下記の講義を公開講座とした。

地域精神看護学

「認知行動療法の基礎」

認知行動療法に役立つコミュニケーションの基礎

講師: 菊池安希子(2018年4月20日)

地域精神看護学

「アディクションの理解と支援」

アディクションの概念、アルコール依存症とその他の依存症(アディクションとしての自傷)

講師:松本俊彦(2018年4月27日)

地域精神看護学

「子どもをめぐる地域精神保健医療」

地域での子どもをめぐる精神保健問題と支援(虐待、愛着障害、ひきこもり等)

講師:田中哲(2018年5月25日)

(6) 研究業績

原著

- 1. 松島英介・市倉加奈子. がん患者の不安と抑うつ 精神医学. 2018; 60(5); 455-462
- 2. Jun Kako, Tatsuya Morita, Takuhiro Yamaguchi, Asuko Sekimoto, Masamitsu Kobayashi, Hiroya Kinoshita, Asao Ogawa, Sadamoto Zenda, Yosuke Uchitomi, Hironobu Inoguchi, Eisuke Matsushima. Evaluation of the Appropriate Washout Period Following Fan Therapy for Dyspnea in Patients With Advanced Cancer: A Pilot Study. Am J Hosp Palliat Care. 2018.02; 35(2); 293-296
- 3. Kanako Ichikura, Aya Yamashita, Taro Sugimoto, Seiji Kishimoto, Eisuke Matsushima. Patterns of stress coping and depression among patients with head and neck cancer: A Japanese cross sectional study Psycho-Oncology. 2018.02; 27(2); 556-562
- 4. Kazuho Hisamura, Eisuke Matsushima, Shouichi Tsukayama, Shinya Murakami, Yoshiharu Motoo. An exploratory study of social problems experienced by ambulatory cancer patients in Japan: Frequency and

association with perceived need for help Psycho-Oncology. 2018.03; 27; 1704-1710

- 5. 松島英介, 市倉加奈子. がん患者の不安と抑うつ 精神医学. 2018.05; 60(5); 455-463
- 6. 松島英介. 抗うつ薬・気分安定薬 (リチウム) の使い分け 医学のあゆみ. 2018.08; 266(7); 504-509
- 7. 松島英介. うつ病・双極性障害の妊婦・授乳婦への治療 医学のあゆみ. 2018.08; 266(7); 523-527
- 8. Jun Kako, Tatsuya Morita, Takuhiro Yamaguchi, Masamitsu Kobayashi, Asuko Sekimoto, Hiroya Kinoshita, Asao Ogawa, Sadamoto Zenda, Yosuke Uchitomi, Hironobu Inoguchi, Eisuke Matsushima. Fan Therapy Is Effective in Relieving Dyspnea in Patients With Terminally Ill Cancer: A Parallel-Arm, Randomized Controlled Trial. J Pain Symptom Manage. 2018.10; 56(4); 493-500
- 9. Ayako Matsuda, Yosuke Yamada, Noriko Ishizuka, Eisuke Matsushima, Kunihiko Kobayashi, Takayoshi Ohkubo, Kazue Yamaoka. Effects of a Self-Monitoring Quality of Life Intervention for Patients with Cancer Receiving Palliative Care in Japan: Study Protocol for a Randomized Controlled Trial Asian Pac J Cancer Prev. 2018.11; 19(11); 3027-3032
- 10. Hiroko Iino,Katsuya Ohta,Keiko Hara,Miho Miyajima,Minoru Hara,Eisuke Matsushima,Masato Matsuura. Vowel-speech versus pure-tone processing in healthy subjects Neuroscience Research. 2018.12; 137; 43-48
- 11. Go Taniguchi, Miho Miyajima, Masako Watanabe, Yoshiko Murata, Daichi Sone, Yutaka Watanabe, Mitsutoshi Okazaki, Motonori Kobayashi-Kimura, Masaaki Kato, Teiichi Onuma. . Nonconvulsive status epilepticus in the elderly associated with newer antidepressants used at therapeutic doses: A report of three cases. Epilepsy Behav. (accepted).

総説

- 1. 野田隆政. 双極性障害診断における NIRS の有用性 BIPOLAR コンパクトガイド. 11(9); 4-6
- 2. 松島英介. 女性外来で抗うつ薬と睡眠薬をどう扱うか? 女性ヘルスケア 集中講義! (久保田俊郎企画) 産婦人科の実際. 64(11); 1447-1455

[講演 口頭発表等]

- 1. 松島英介. 妊娠・授乳期の双極性障害の薬物療法. シンポジウム 5. 特定の病態における双極性障害の薬物療法 up-to-date. 第 15 回日本うつ病学会総会 2018.07.27
- 2. 松島英介. 抗うつ薬: 形態奇形はパロキセチンだけの問題か? そして機能奇形は大丈夫か? シンポジウム 4. 妊娠・授乳と向精神薬治療. 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同 大会 2018.11.14

その他業績

- 1. 田上美千佳:科学研究費挑戦的萌芽研究 研究代表者, 2018 年 03 月 精神科救急入院料病棟における家族への退院支援ガイドライン開発
- 2. 田上美千佳:科学研究費基盤研究(B)研究代表者, 2018 年 04 月 精神科外来における患者と家族への包括的看護支援方法の開発

[社会貢献活動]

- 1. 田上美千佳:日本精神科救急学会編集委員, 1999年 04月 01日 現在
- 2. 田上美千佳:日本精神保健看護学会査読委員,2001年04月01日-現在
- 3. 田上美千佳: 社会福祉法人かがやき会評議員, 2002 年 04 月 01 日 現在
- 4. 田上美千佳: 東京都精神医療審査会委員, 2004年04月01日-現在
- 5. 田上美千佳:日本病院 · 地域精神医学会編集委員, 2005 年 04 月 01 日 現在
- 6. 田上美千佳: 日本病院 · 地域精神医学会評議員, 2008 年 04 月 01 日 現在
- 7. 田上美千佳:お茶の水看護学雑誌査読委員, 2013年04月01日 現在

- 8. 田上美千佳:東京医科歯科大学附属病院臨床連携教員, 2013年04月01日-現在
- 9. 田上美千佳:日本社会精神医学会評議委員,2014年04月01日-現在
- 10. 田上美千佳:世田谷区障害者施策推進協議会 委員, 2016年10月01日-現在
- 11. 田上美千佳:文部科学省大学設置:学校法人審議会専門委員,2016年10月01日-現在
- 12. 田上美千佳: こころの相談機能等の強化検討専門部会 委員, 世田谷区世田谷保健所 健康推進課, 2017年 06月01日 現在
- 13. 田上美千佳:一般社団法人日本精神保健看護学会第3期監事,2017年06月23日-現在
- 14. 田上美千佳:一般社団法人日本精神保健看護学会第3期代議員,2017年06月23日-現在
- 15. 田上美千佳:メンタリングと相談面接 [講義] , 東京医科歯科大学医学部付属病院看護部, メンター研修プログラム, 東京医科歯科大学附属病院, 東京, 2018 年 02 月 15 日
- 16. 田上美千佳:家族の理解と援助 [講義] , 日本精神科看護協会, 精神科看護初心者研修会, 東京研修会場, 東京、2018 年 04 月 25 日
- 17. 田上美千佳:メンタリングと相談面接 [講義] , 東京医科歯科大学医学部付属病院看護部, メンター研修プログラム, 東京医科歯科大学附属病院, 東京, 2018 年 06 月 07 日
- 18. 田上美千佳:家族援助論 2 [講義] ,日本精神科看護協会,対象理解 II 精神保健福祉における個別課題,東京研修会場,東京,2018 年 06 月 09 日
- 19. 田上美千佳:世田谷区障害者施設整備等に係る基本方針検討委員会,世田谷区,2018年08月01日-現在
- 20. 田上美千佳:日本社会精神医学会広報委員,日本社会精神医学会,2018年09月01日-現在
- 21. 田上美千佳:家族援助·家族心理教育 [講義] , 東京女子医科大学大学院, 東京女子医科大学大学院博士前期課程, 実践看護学 IV 精神看護学演習, 東京女子医科大学, 東京, 2018 年 10 月 24 日
- 22. 美濃由紀子:日本 IPR 研究会 運営委員
- 23. 美濃由紀子:お茶の水看護学誌 査読委員
- 24. 美濃由紀子:お茶の水医学雑誌 査読委員
- 25. 美濃由紀子: 社会福祉法人けやき 評議員
- 26. 美濃由紀子:東京医科歯科大学医学部付属病院 看護部臨床連携教員
- 27. 美濃由紀子:日本看護科学会誌 査読委員
- 28. 美濃由紀子:日本精神保健看護学会 査読委員

小児 家族発達看護学

Child and Family Nursing

 准教授
 岡光
 基子

 助教
 矢郷
 哲志

 技術補佐員
 村松
 三智

 非常勤講師
 幸本
 敬子

大学院生 来生 奈巳子(~2018年3月)

 大学院生
 岡林 優喜子

 大学院生
 野村 智実

 大学院生
 勝本 祥子

 研究生
 弓気田 美香

研究生 来生 奈巳子 (2018年4月~)

(1) 分野概要

小児看護学を専門とする教育分野として発足し、平成20年度からは、乳幼児精神保健に関する知識とスキルを持つ小児専門看護師(CNS)養成カリキュラムの運用を始め、小児看護の高度専門家の養成とその領域における研究を遂行している。研究においては、乳幼児とその家族に対する早期介入支援を主要なテーマとして取り組み、研究成果を看護実践に活用し、大学病院や小児科クリニックでの育児支援外来の運営にも関わっている。また、日本語版NCASTやファミリーパートナーシップモデルに基づく妊娠期からの育児支援など、専門職向けの講習会を開催している。

(2) 研究活動

乳幼児精神保健を基盤とし、主に乳幼児の発達、親子の相互作用、乳幼児とその家族に対する早期育児支援介入に関する研究に取り組んでいる。

研究の主なテーマは、

- 1) 早産・低出生体重児、先天性疾患、慢性疾患、発達障害など、様々な背景をもつ乳幼児期の親子相互作用とその関連要因
- 2) 乳幼児精神保健の理論に基づく育児支援介入
- 3) ファミリーパートナーシップモデルに基づく妊娠期からの早期育児支援
- 4) 小児科外来でのファミリーパートナーシップモデルに基づく多職種による育児支援の有効性
- 5) 父親に対する育児支援
- 6) 周産期における母児エピゲノムの体系的解析
- 7) 幼児の社会―情緒的、行動上の問題に関するアセスメントツールの開発
- 8) 小児領域の看護師による倫理的実践の構造と教育プログラムの開発
- 9) 慢性疾患をもつ子どもと家族のための患者家族滞在施設の役割の検討などである。

国内外の研究施設と情報交換しながら研究活動を行い、6) においては、東京医科歯科大学医学部附属病院周産女性診療科、発生発達病態学分野、難治疾患研究所、国立健康・栄養研究所と共同研究を行っている。

(3) 教育活動

1) 学部教育

小児看護学Ⅰ・Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、卒業論文Ⅱ、看護の統合と実践(1コマ)を担当

している。卒業論文Ⅱにおいては、5名の学生が各々の研究テーマにそって研究過程を学び、論文にまとめて、口 頭発表をするまでを指導した。

2) 大学院教育

小児家族発達看護学特論 A1·B、小児家族発達看護学演習 A1·B、共通科目である家族看護学特論を担当した。

(4) 臨床活動および学外活動

乳幼児精神保健を看護実践に活用し、育児に不安や困難を抱える親とその子どもを支援することを目的として、東京医科歯科大学医学部附属病院小児科外来・病棟・NICU及び大川こども&内科クリニックにおける育児支援外来の運営に関わっている。また、1型糖尿病の患者・家族会(東京わかまつ会)の運営にも携わっている。

(5) 研究業績

書籍等出版物

1. 村松十和, 岡本美和子, 大槻恵子, 岡光基子, 小川絢子, 鎌田佳奈美, 鈴木香代子, 高橋泉, 矢郷哲志. 健やかな育ちを支える人への子どもの保健. 樹村房, 2018.03 (ISBN: 978-4-88367-163-2)

総説

- 1. 矢郷哲志. 【小児・周産期の看護と乳幼児精神保健-多職種連携による育児支援-】 父親に対する育児支援の 現状と課題 乳幼児医学・心理学研究. 2018.12; 27(2); 123-130
- 2. 岡光基子,鈴木香代子. 【小児・周産期の看護と乳幼児精神保健-多職種連携による育児支援-】 親と専門職者 のパートナーシップ 早期支援プログラムと介入効果に関する研究の検討 乳幼児医学・心理学研究. 2018.12; 27(2); 131-138

|講演 | 口頭発表等|

- 1. Okamitsu Motoko, Takimoto Hidemi, Sato Noriko, Yago Satoshi, Imai Chihiro, Tay Zar Ktaw, Nay Chi Htun, Aoyama Tomoko, Fudono Ayako, Miyasaka Naoyuki. Associations between maternal mental health, nutrition, and neonatal outcomes in Japanese birth cohort. 16th WAIMH WORLD CONGRESS 2018.05.26 Rome, Italy
- 2. Satoshi Yago, Motoko Okamitsu. Predictors of social-emotional and behavioral problems and competencies in early childhood in Japan. 16th WAIMH World Congress 2018.05.28 Rome, Italy
- 3. 弓気田美香, 岡光基子, 矢郷哲志. 食物アレルギーのある子どもを持つ母親のソーシャルサポート. 第 65 回日本小児保健協会学術集会 2018.06.14 米子
- 4. 金昕、今井千裕、Shilpa Pavethynath、飛知和尚美、瀧本秀美、岡光基子、Nay Chi Thun、青山友子、矢郷哲志、不殿絢子、宮坂尚幸、 望月和樹、佐藤憲子. 妊娠による炎症関連遺伝子 TNF の Gene body 領域 DNA メチル化状態の変化. 第7回日本 DOHaD 学会学学術集会 2018.08.18 東京
- 5. 飛知和尚美,今井千裕,Shilpa Pavethynath,金昕,瀧本秀美,岡光基子,Nay Chi Thun,青山友子,矢郷哲志,不殿絢子,宮坂尚幸,佐藤憲子. 新生児における SKI 遺伝子 ADHD 関連部位の DNA メチル化個人差. 第 41 回日本分子生物学会年会 2018.11 横浜
- 6. 野村智実, 岡光基子, 矢郷哲志, 宮尾益知. 発達障害の傾向のある母親への育児支援: 特性に配慮した支援についての検討. 乳幼児保健学会第12回学術集会 2018.11.24 柏
- 7. 三国久美, 草薙美穂, 澤田優美, 斎藤早香枝, 岡光基子, 矢郷哲志, 廣瀬たい子, 大久保功子. ファミリーパートナーシップ講習会を受講した看護職による育児相談の効果—小児科外来における育児相談を利用した母親による評価の比較—. 乳幼児保健学会第 12 回学術集会 2018.11.24 柏
- 8. 岡光基子. パネルディスカッション「地域における子ども支援—多職種連携の新しいかたちー」指定討論者. 乳幼児保健学会第 12 回学術集会 2018.11.24 柏

社会貢献活動

- 1. 乳幼児保健学会 理事(岡光基子), 2012年04月01日-現在
- 2. お茶の水看護学雑誌 査読委員(岡光基子), 東京医科歯科大学, 2016年04月01日 2019年03月31日
- 3. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 会計監査(岡光基子), 東京わかまつ会, 2016 年 04 月 01 日 現在
- 4. 日本乳幼児医学·心理学会 評議員·編集委員(岡光基子), 日本乳幼児医学·心理学会, 2016年 04月 01日 現在
- 5. お茶の水看護学研究会 会長・編集委員 (岡光基子), お茶の水看護学研究会, 2016年04月01日-現在
- 6. 乳幼児保健学会 事務局(矢郷哲志), 2016年04月01日-現在
- 7. 東京わかまつ会小児糖尿病患者会 運営スタッフ (矢郷哲志), 2016年04月01日 現在
- 8. 日本体育大学 非常勤講師 (岡光基子), 2016年04月01日-現在
- 9. 日本乳幼児医学·心理学研究 查読委員(岡光基子),日本乳幼児医学·心理学会,2016年04月01日-現在
- 10. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」DD ユニットファミリーサポート保育サービス講習会「小児看護の基礎知識」 講師(岡光基子), 東京医科歯科大学, 2016 年 07 月 20 日 現在
- 11. 母子保健福祉委員(岡光基子), 神奈川県小田原保健福祉事務所, 2017年03月13日-現在
- 12. 公益社団法人東京都歯科医師会附属歯科衛生土専門学校 非常勤講師(矢郷哲志), 2017年04月01日-現在
- 13. JNCAST 講習会 講師(岡光基子), 東京医科歯科大学, 東京有明医療大学, 2017年08月26日 現在
- 14. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師(岡光基子), 小田原保健福祉事務 所, 2017 年 09 月 28 日 現在
- 15. 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)」DD ユニットファミリーサポート 保育サービス講習会 「小児看護の基礎知識」 講師(矢郷哲志), 2017 年 09 月 28 日 現在
- 16. ファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援講習会 講師(矢郷哲志), 小田原保健福祉事務 所, 2017 年 09 月 28 日 現在
- 17. 乳幼児医学 · 心理学研究 特集企画「小児 · 周産期の看護と乳幼児精神保健—多職種連携による育児支援ー」 編集委員, 日本乳幼児医学 · 心理学会, 2018 年 04 月 01 日 - 2018 年 12 月 31 日
- 18. 東京有明医療大学 非常勤講師 (矢郷哲志), 2018年04月01日-現在
- 19. 日本体育大学 非常勤講師 (矢郷哲志), 2018年04月01日-現在
- 20. 乳幼児保健学会第 12 回学術集会 企画委員(岡光基子), 乳幼児保健学会, 柏, 2018 年 11 月 24 日
- 21. 乳幼児保健学会第12回学術集会 企画委員(矢郷哲志),乳幼児保健学会,柏,2018年11月24日
- 22. 乳幼児保健学会第12回学術集会 実行委員(村松三智),乳幼児保健学会,柏,2018年11月24日

リプロダクティブヘルス看護学

Reproductive Health Nursing

教授 大久保 功子 講師 三隅 順子

大学院生

博士後期課程 小田柿 ふみ

博士5年一貫課程

 佐野
 深雪

 鈴木
 由美子

 佐藤
 千鶴

 石田
 徹

 今村
 美聡

非常勤講師

松岡 秀明勝又 織里

(1) 分野概要

当該分野では、主に性と生殖に関する健康と権利にかかわる看護や助産についての研究教育を行っています。周産期ならびに、女性の生涯にわたる看護あるいは助産に関する研究者に必要とされるであろう能力を高めるために、EBMやNBMの視点をおりまぜながら、研究のトレンドや研究方法の歴史的背景や哲学的立場を踏まえ、深く掘り下げた研究クリティークを行っています。

学部教育では、看護師国家試験受験資格に必須とされている、母性看護学の講義、演習、実習、卒業論文を担当しています。

不定期ですが、質的研究の勉強会も開催しています。

(2) 研究活動

現象学、GT、エスノグラフィー、疫学、演繹的帰納的アプローチ、ナラティヴ研究法など、研究課題に則して適切に研究方法を選択して取り組むべく、日夜努力しています。単なる手順として研究法を理解するのではなく、その歴史的背景や哲学から理解することを目指しています。女性と性的マイノリティの人のための看護実践、助産学、看護学、人間科学における知を開発するための研究にも取り組んでいます。かといって、量的研究を行わないわけではなく、疫学的手法や共分散構造分析を用いた尺度開発も行っています。おかげさまで、学院論文2本を含め、今年度は3本の研究が受理されたので、来年の年報にはさらに多くの論文を掲載することができそうです。代替医療、精神分析学、対人関係論、カウンセリング理論、アタッチメント理論、絆理論、看護理論、助産理論についても学び続けています。大久保は主に親子の精神的健康、三隅は DV に関心を持って研究と実践に取り組んでいます。

現在、Munhall の質的研究法を読み終え、Riessman のナラティヴ分析の抄読会を行っています。また、ファミリーパートナーシップモデルの基となっている、ケリー心理学の抄読会を予定しています。これらの活動に関しては、今後、オープンにしていく可能性があります。興味のある方は連絡をいただければと思います。

(3) 教育活動

2019 年度 4 月の時点で、大学院には博士課程に 1 名と博士 5 年一貫課程に 5 名の学生が在籍していました。 チリとカンボジアと大阪を LINE で結んで、ゼミを行ってきました。チリ在住の小田柿氏が博士後期課程を修了 し、博士 (看護学) の学位を取得しました。東京在住の勝又氏も、博士 (看護学) の学位を取得しました。カンボジ ア在住の鈴木さんが休学となるため、LINE でのゼミはしばしお休みとなり、今後はリアルゼミのみとなります。 教育活動として、自分の研究課題に取り組むだけではなく、様々な研究のプロセスを学びあい、お互いに切磋 琢磨する環境づくりをこころがけています。副指導担当となっている他領域の学生にも、当該分野のゼミに参加 して発表し、議論していただいています。

(4) 教育方針

自分の心で感じ、頭で考え、書くことができる、これからの研究者を育てることをモットーとしています。

(5) 臨床活動および学外活動

大久保は主に質的研究、三隅は DV 被害者支援関係で全国行脚をしています。

(6) 研究業績

原著

- 1. Saito Maki, Okubo Noriko, Tezuka Aya, Odagaki Fumi, Hiroyama Natsuko, Misumi Junko. Difficulties During Pregnancy for Foreign Resident Women in Japan(和訳中) 日本国際看護学会誌. 2018.03; 1(1); 1-12
- 2. Maki Saito, Noriko Okubo, Aya Tezuka, Fumi Odagaki, Natsuko Hiroyama, Junko Misumi. Difficulties During Pregnancy for Foreign Resident Women in Japan Journal of Japanese Society for International Nursing Vol.1 No.1 2018. 2018.06; 1(1);

書籍等出版物

1. 齋藤いずみ,大平光子,定方美恵子,長谷川ともみ,三隅順子.看護学テキスト NiCE 母性看護学 I 概論・ライフサイクル 改訂 1. 2018.03

総説

1. 鈴木 由美子, 大久保 功子. 出産の振り返りに関する文献検討 日本助産学会誌. 2018.04; 32(1); 3-14

[講演 口頭発表等]

- 1. Naomi Kanho, Nozomi Ieyoshi, Junko Misumi, Mari Yamanami, Setsuko Lee. Accomplishment and evaluation of SART (sexual assault response team) training program. The All Together Better Health IX (ATBH IX) Conference 2018.09.04 Auckland University of Technology, Sir Paul Reeves Building, 2 Governor Fitzroy Place, Auckland, New Zeland
- 2. Chizuru Sato, Noriko Okubo, Junko Misumi, Yumiko Suzuki . An evaluation of Flipped class in Undergraduate Nursing students. The 38th Annual conference of Japan Academy of Nursing Science 2018.12.16 Matsuyama, Ehime

[Works]

1. 性暴力被害者ワンストップ支援センターでの対応について, 教材, 性暴力被害者ワンストップ支援センターの 新規支援者研修, 2017 年 05 月 - 現在

[その他業績]

- 1. SART 研修 in 札幌, 2018 年 02 月 SART 研修プログラムの実施と評価
- 2. NICU における熟練看護師の技の解明に基づく教育プログラムの開発, 2018 年 05 月 大久保功子(研究代表者) 文部省科学研究費助成金(基盤研究 C) 2018-2021 年
- 3. 出産後の夫婦の相互作用を促す予期的看護支援プログラムの構築 大久保功子 (研究分担者):科学研究費補助金(基盤研究 C)24593376.2013-2016 年.
- 4. 小児外来でのファミリーパートナーシップモデルに基づく多職種による育児支援の有効性 大久保功子 (研究分担者): 科学研究費補助金 (基盤研究 B)26293488.2014-2018 年.
- 5. 児童・思春期精神科病棟における看護師のための家族支援ガイドラインの開発 大久保功子 (研究分担者): 科学研究費補助金 (基盤研究 C)2015~2019 年
- 6. 妊娠期からのファミリーパートナーシップモデルに基づく早期育児支援の有効性 大久保功子 (研究分担者):科学研究費補助金 (基盤研究 C) 研究課題番号:15K11695.2015~2018 年
- 7. 精神障害を抱える妊産婦のケアで、助産師が直面する困難と対処 大久保功子(研究分担者):科学研究費補助金(基盤研究 C)

[社会貢献活動]

- 1. 日本看護科学学会誌査読委員英文誌, 2003年10月01日-現在
- 2. SANE 研修 講義&ワーク:性暴力被害女性への看護の実際,女性の安全と健康のための支援教育センター, SANE 研修,東京有明医療大学,2004年04月01日 - 現在
- 3. 乳幼児保健学会理事, 2008年05月01日-現在
- 4. 御茶ノ水看護学研究会理事, 2010年10月01日 現在
- 5. 子どもの健康と環境に関する全国調査倫理問題検討委員, 国立環境研究所, エコチル調査, 2011 年 04 月 01 日 現在
- 6. SAFER 研修 ミニレクチャー&ワーク, NPO 法人 レジリエンス, 2012 年 12 月 12 日 現在
- 7. 第 50 回日本医学教育学会大会実行委員, 吉澤靖之学長, 2017 年 10 月 30 日 2018 年 08 月 05 日
- 8. SANE, 読売新聞社, 読売新聞富山県版, 2018年02月27日
- 9. SARC 東京 支援員研修講座, SARC 東京, 江戸川グリーンパレス, 2018 年 05 月 19 日
- 10. 宮城登米産業高 性的自己決定権とコンセント, みやぎジョネット, 宮城県内学校性教育, 宮城県登米総合産業高等学校/福祉科, 2018 年 07 月 19 日
- 11. ワンストップ支援センター和歌山 mine ボランティア養成研修, NPO 法人 レジリエンス, 和歌山性暴力 被害者支援研修 2018, 和歌山県 和歌山ビッグ愛:〒 640-8319 和歌山市手平 2 丁目 1-2 , 2018 年 08 月 18 日 2018 年 08 月 19 日
- 12. 埼玉県ワンストップ支援センター支援員研修; SANE の制度について, 埼玉県、埼玉県警察、(公社) 埼玉犯 罪被害者援助センター、埼玉県産婦人科医会, 性暴力等被害者支援協定締結 5 周年記念行事 医療従事者の ための性暴力被害支援セミナー, 埼玉県県民健康センター 1 階大会議室 AB (さいたま市浦和区仲町 3-5-1), 2018 年 10 月 21 日

在宅ケア看護学

Home Care Nursing

教授 本田 彰子講師 内堀 真弓

院 生 石原 由花(2018年4月より研究生)

研 究生 YU TIANLAI

今

宮川 久恵

亜矢

(1) 分野概要

地域包括ケアの時代に向けて、急性期・慢性期、および終末期において保健医療福祉が連携協働して地域で暮らす人々の健康の維持増進、疾患や障害を持って生活する人々への支援について、看護実践力を身に着ける教育と、関連する看護方法の開発、研究を行う。大学院教育では、特に終末期にある人々とその家族が、自宅で安心安楽な療養ができ、QOLを維持するための介入方法を探索、開発している。加えて、地域中心の療養生活を円滑に支援する社会の仕組みを構築するために、医療施設の入退院、外来看護の充実、保健医療福祉の多職種連携、および、在宅ケア専門職の育成を研究課題として取り組んでいる。

(2) 研究活動

在宅看護学における実践的な問題解決または改善の方策についての研究に取り組んでいる。

- 1. 在宅ケアにおける自立支援からターミナルケアまでの健康状態や障害レベルに合わせた実践的研究
- 2. 在宅ケアにおけるアウトカム評価・ケアの提供方法・ケアマネジメント・ケアシステム・運営管理方法・継続ケア
- 3. 健康問題や生活問題を持つ人々の家族を単位としたケア技術の理論構築と実践への応用
- 4. 訪問看護を取り巻く介護医療に関わる制度およびサービス提供体制
- 5. 訪問看護師への支援体制作り
- 6. 神経難病患者・がん終末期患者等医療依存度の高い療養者の訪問看護
- 7. 在宅ケアに関わる保健福祉医療等他職種の連携
- 8. 訪問看護における高齢者ケア、ターミナルケア
- 9. 病院から在宅への移行期における緩和ケア
- 10. がん患者家族への在宅での療養支援
- 11. 地域住民のネットワーク形成
- 12. 訪問看護師の現任教育
- 13. 慢性疾患患者のセルフケア支援
- 14. 慢性疾患患者の継続看護

(3) 教育活動

学部教育においては、2年生を対象とした講義では、在宅ケアにおける制度、および地域社会における保健福祉医療の資源等についての基礎的内容について教育している。

3年生を対象とした講義・演習・実習では、施設医療からの移行期から在宅ターミナルに至るまでの訪問看護に関する仕組み、看護技術、他職種連携等の理論と実践、さらに介護保険・医療保険等、諸制度のもとでの療養支援に関する制度利用の仕組み、サービス提供体制、ケアマネジメントについて学びを深めている。演習では具体的な訪問看護技術、および看護の展開を学ぶ機会としている。臨地実習においては、訪問看護ステーションの実習のみならず、地域包括支援センターにおけるケアマネジメント、予防介護に関する活動の実際、および病院の退院調整部門における退院支援の実際について体験を通して理解を深めている。

卒業研究では、学生の関心を尊重し学生と相談してテーマを決め、適切な研究フィールドを提供することによって、実践的な在宅ケア看護研究ができるように指導している。

大学院教育においては、訪問看護、退院調整支援、地域における他職種との連携、在宅ターミナルケア等の研究課題に対する講義演習を行い、これらの学習と臨床経験を基に、高齢社会における在宅看護の課題に注目し、それぞれ実践的な研究に取り組む支援をしている。在宅看護に対する期待が高まる現在の社会情勢を鑑み、実践の場で活動ができ、かつ、今後指導的立場で教育・実践・研究に関われる人材の育成を目指している。

(4) 教育方針

在宅看護は対象の年代、疾患を特定せず、広く対象のニーズに対応できる看護を提供するものである。よって、他の領域の講義演習、および実習での学習を踏まえて、それを統合する形で対象者にケアを提供することが求められる。また、生活の場を重視した援助は、医療職のみならず、介護福祉職や一般の住民と連携をとることが求められる。社会の一員としての立場をとりつつ、ケア提供ができることも求められる。このような在宅看護の特徴を伝えていくことを大切にしたい。

(5) 臨床活動および学外活動

訪問看護の職能団体である日本訪問看護財団の活動には、「調査研究活動」「人材育成研修活動」「研究支援(研究倫理審査委員会)活動」等に加わっている。また、訪問看護師の実践における学習支援プログラムの開発の研究は、現任教育の課題に取り組むものであり、実習受け入れ訪問看護ステーションとの関係強化につながると考えられる。

また、慢性疾患患者のセルフケア支援の実践として、フットケアの資格を活かし、糖尿病患者の足病変の外来 相談に加わっている。

(6) 臨床上の特色

臨床活動のほとんどが、附属病院以外の場となっており、医学部附属病院を中心とした臨床看護に貢献することが少ない。しかし、在院日数が短くなっている現在、退院調整や外来看護も在宅看護に含まれると考えられ、地域での教育研究活動・実践活動を外来看護や退院支援につなげることで、双方にとっての発展が期待できる。

特に、地域包括ケアシステム構築が急務である現在、高齢者療養支援に留まらず、地域に住む人々の健康の維持増進、住み慣れた自宅での看取りに関わる看護職が求められており、看護基礎教育、および現任教育で在宅ケアを担える看護職の育成に貢献できると考える。

(7) 研究業績

書籍等出版物

- 1. 渡辺裕子、上野まり、中村順子、本田彰子、炭谷靖子. 家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編 第 4 版. 2018.02 (ISBN: 978-4-8180-2098-6)
- 2. 渡辺裕子、上野まり、中村順子、本田彰子、炭谷靖子. 家族看護を基盤とした在宅看護論 Ⅱ実践編 第4版. 2018.02 (ISBN: 978-4-8180-2099-3)
- 3. 正野逸子, 本田彰子. 関連図で理解する在宅看護過程第2版. 2018.06 (ISBN: 978-4-8392-1629)

総説

- 1. 平山 香代子, 栗本 一美, 炭谷 靖子, 正野 逸子, 上野 まり, 荒木 晴美, 菊池 和子, 王 麗華, 本田 彰子. 充実した在宅看護学実習の実現をめざして(前編) 在宅看護学実習に対する教員の"戸惑い" 教育コラボレーションの可能性を考えるワークショップから 看護教育. 2018.07; 59(7); 564-569
- 2. 平山香代子, 栗本一美, 炭谷靖子, 正野逸子, 上野まり, 荒木晴美, 菊池和子, 王麗華, 本田彰子. 充実した在宅 看護学実習の実現をめざして (中編) 受け入れ側の訪問看護ステーションと大学の連携からの示唆 看護 教育. 2018.08: 59(8): 718-723
- 3. 平山香代子, 栗本一美, 炭谷靖子, 正野逸子, 上野まり, 荒木晴美, 菊池和子, 王麗華, 本田彰子. 充実した在宅 看護学実習の実現をめざして (後編) 管理者がとらえた, 在宅看護学実習の受け入れによる訪問看護師への 教育的効果 看護教育. 2018.09; 59(9); 810-815

[講演 口頭発表等]

- 1. 緒方 泰子, 前田 留美, 太田 沙紀子, 本田 彰子, 重光 直之. 看護の職場におけるコミュニティシップとは その特徴と醸成の鍵について考える. 第8回日本看護評価学会学術集会 2018.03.06 東京
- 2. 相島 美彌, 本田 彰子, 内堀 真弓. 急性期病院の外来に通院している慢性疾患患者の急性増悪に影響する要因の探索. 第44回日本看護研究学会学術集会 2018.08.18
- 3. 川口 孝泰, 山口 桂子, 宮腰 由紀子, 本田 彰子, 岩本 幹子, 塩飽 仁, 佐藤 政枝. 看護系論文の共著者ネット ワーク分析からみた「日本看護研究学会」における学術上の未来と方向性. 第 44 回日本看護研究学会学術 集会 2018.08.19 熊本
- 4. 内堀 真弓, 横田 香世, 山﨑 智子, 浅野 美知恵, 本田 彰子. フットケア外来を受診する糖尿病患者の合併症重症化予防のためのセルフモニタリングの実際と対処における困難について. 第23回日本糖尿病教育・看護学会学術集会2018.09.23
- 5. 柿沼 直美, 本田 彰子, 神山 吉輝, 内堀 真弓, 山崎 智子. 訪問看護師の実践力育成に向けたカンファレンスの 改善 学習指標を活用したリフレクション効果の検証. 第 38 回日本看護科学学会学術集会 2018.12.15

受賞

1. 平成 30 年度千葉県看護協会長賞, 千葉県看護協会, 2018 年 10 月

[その他業績]

1. ドキュメンタリー映画『いきたひ』上映と臨終体験ワーク、講演, 2018 年 03 月 ドキュメンタリー映画『いきたひ』の監督(長谷川ひろ子氏)による臨終体験ワーク、講演を企画し、看取 り直しをテーマに、生死に立ち会う医療職として「何ができるか」を考えるセミナーを開催した。

社会貢献活動

- 1. 日本難病看護学会誌 編集委員長, 2008 年 04 月 01 日 現在
- 2. 日本在宅ケア学会学術集会 示説座長, 2018年07月14日 2018年07月15日
- 3. 日本難病看護学会学術集会シンポジウム 座長, 2018 年 07 月 21 日 2018 年 07 月 22 日
- 4. 日本医学教育学会大会 口演座長, 2018年08月03日 2018年08月04日
- 5. 神奈川県訪問看護師養成講習会 ,神奈川県看護協会,2018年09月06日

がんエンドオブライフケア看護学

End-of-Life Care and Oncology Nursing

准教授 山﨑 智子

院生 三部 ひさこ

田村 里佳 伏見 真由 柳谷 利恵 牧野 倫子

西塚 祐樹 片岡 綾華

佐藤 由紀子

研究生 劉 菲

(1) 分野概要

本分野では、がん患者を中心に、診断・治療初期、外来治療継続の時期、人生の終末の時期にある患者や家族の意思決定、症状緩和や苦悩についての体験を明らかにすること、さらには残された遺族の体験や困難を明らかにし、看護支援の必要性や支援のあり方を追求するとともに、研究成果の還元によるがんエンドオブライフケア看護学の構築を目指している。

(2) 研究活動

本分野では、がんの罹患から終末期に至るまでの様々な病期にある患者 · 家族の苦悩を理解し、自身の望む生き方がかなえられる意思決定支援や患者 · 家族の力を高める看護支援や遺される人々への苦悩に寄り添い、生き抜く力を支えるケアについても探求している。

- 1. がん再発期にある患者の希望を支える看護支援の開発
- 2. 壮年期のがん患者とその子供を支える看護支援
- 3. がんの再発を繰り返す患者のレジリエンスを支える看護支援の開発
- 4. 治癒の望めない進行がん患者と家族の終末期を支える看護支援
- 5. がん患者との死別を体験した遺族へのグリーフケア
- 6. 患者と死別した看護師のグリーフを支援するプログラムの開発

(3) 教育活動

学部教育においては、4年生の緩和ケア看護学の講義で、病院での医療・看護のみならず、人々が暮らしている自宅を療養の場としてケアを展開することへの理解を深める。そのために、在宅ホスピスを中心に、終末期にある人々と家族の特徴を理解し、QOLの向上を目指した看護について、自宅での症状コントロールや療養の体制作り、看取りおよびその後の家族に対する看護の理解を目指している。

また遺族へのグリーフケアや看護師のグリーフや共感疲労についても理解を深め看護師自身のセルフケアにつ

いても教授する。

大学院教育では、がん看護の専門性の追求と発展の教育研究に加え、高度実践者としてのがん専門看護師(CNS)教育を行っている。

5年一貫制博士課程の利点をいかして、5年間の中で自身の追求したい研究テーマに合わせて、柔軟に実習を組み込みながら研究を進めることができるようにしている。

(4) 教育方針

常に一人の人として、よく生き、よく死ぬことについて考えを深め、死生観を醸成する。それらを基盤にして、 人生の危機にある他者を援助する看護について考えることが出来る実践者、研究者を育成する。

さらにコミュニティーの中においても、病気を持っていても持っていなくても、人としてよく生き、よく死のうとする人々とともに考え、生と死について考えを深めるための手助けをする役割を果たす人になることを目指す。

(5) 臨床活動および学外活動

がんを罹患した人々が、自身の気持ちや体験を発信するコミュニティーに参加し、体験を書き起こし記録するなどの活動を支えている。

地域の中でがんに罹患した人々、自宅で終末期を過ごす人々を支える訪問看護の現場において看護活動を行っている。

コミュニティーにおいて、がんに罹患した患者・家族・遺族、そのような体験はないが自身の死やがんについて考える人々が集う、「がん哲学外来・聖橋プラムカフェ」を大学院生が主催し、分かち合いの場の提供と支援を行っている。

家族に限らず、愛する対象を亡くし遺された人々を対象として、GCC 認定グリーフカウンセラーとしてカウンセリングを行っている。

(6) 臨床上の特色

実習や研究を行う場は、がんに罹患した患者・家族の存在するところ、どこにおいても看護の役割について考える場となりうる。

病院施設、在宅療養の場のみならず、コミュニティにおいても、患者・家族がいかに自分らしく生きるか、そのためにどの様な人的・物的資源を活用して支援をしていけるかを考えていく。

(7) 研究業績

|講演 | 口頭発表等|

- 1. 内堀 真弓, 横田 香世, 山崎 智子, 浅野 美知恵, 本田 彰子. フットケア外来を受診する糖尿病患者の合併症重症化予防のためのセルフモニタリングの実際と対処における困難について. 第23回日本糖尿病教育・看護学会学術集会2018.09.23
- 2. 柿沼 直美, 本田 彰子, 神山 吉輝, 内堀 真弓, 山崎 智子. 訪問看護師の実践力育成に向けたカンファレンスの 改善 学習指標を活用したリフレクション効果の検証. 第 38 回日本看護科学学会学術集会 2018.12.15

その他業績

1. ドキュメンタリー映画「いきたひ」上映と臨死体験ワーク主催, 2018 年 03 月 ドキュメンタリー映画「いきたひ」の監督長谷川ひろ子氏を招き、映画の上映と長谷川氏による臨死体験ワークを主催し、多くの人と看取りと死に逝くことについて共有する機会を設けた。

[社会貢献活動]

- 1. エンドオブライフケア 在宅における家族支援, 神奈川県看護協会, 神奈川県看護協会訪問看護師養成講座, 神奈川県看護協会, 2018 年 09 月 06 日
- 2. 医療の隙間を埋める看護師の役割 , がん哲学外来ナース部会 , 第 1 回がん哲学外来ナース部会全国大会 , 順天堂大学 10 号館 , 2018 年 11 月 23 日

国際看護開発学

International Nursing Development

教授 近藤 暁子

非常勤講師

Ann L. Eckhardt

非常勤講師

CHIANG Chung LimVico

非常勤講師

大田 えりか

非常勤講師

山崎 久美子

非常勤講師

MABEL C. EZEONWU

非常勤講師

錢 淑君

非常勤講師

Ann L. Eckhardt

非常勤講師

CHIANG Chung LimVico

非常勤講師

山崎 久美子

非常勤講師

MABEL C. EZEONWU

非常勤講師

錢 淑君

大学院生

ABULIEZI RENAGULI

大学院生 栗原 淳子

学生 WEN LIANG

学生 ABULIEZI RENAGULI

学生 HUA JING

学生 QIAN HUILIN

(1) 分野概要

国際看護開発学分野は、世界の看護をリードする卓越した教育・研究遂行能力をもつ人材を育成する目的で開設された分野である。主として大学院教育の中で、国際的視点の育成と看護国際人に必要なアカデミックマナーの習得及び国際的研究を支援している。留学生も多く受け入れ、大学院講義・ゼミはすべて英語で実施し、英語運用能力の維持・向上に努めている。

(2) 研究活動

主に成人 ~ 高齢者の健康問題を中心に、国際的視点から新たな看護方法の開発を目指している。諸外国との国際比較を通して、わが国の実情と文化・社会ニーズに即したシステムを探求している。近年の研究テーマは、急性冠症候群患者のコントロール感とアウトカムとの関連についての日米比較であり、イリノイウェスレヤン大学および昭和大学の教員と共同研究を行っている。欧米では患者のコントロール感が高いほど患者の回復が良いという研究結果が多く示されている。日本にはお任せ医療という文化があると言われているが、実際コントロール感について日米の患者と違いがあるのか、コントロール感が患者のアウトカムに影響しているのか検証している。また、大学院生は留学生の健康管理や外国人看護師の日本での活躍と困難について探求予定である。

(3) 教育活動

1)学部教育

学部4年生を対象として、「国際保健看護学」および「総合実習」を担当している。国際保健看護学では、単に諸外国の医療と看護の現状を理解するに留まらず、各国・地域の歴史・社会システムの変遷と関連から、人々のかかえる健康問題や保健・看護問題の本質を考える姿勢を養うことを重視している。遠隔講義システムを利用し香港理工大学 Vico Chiang 准教授および米国イリノイウェスレヤン大学 Ann Eckhardt 講師の講義を英語で実施ししている。「総合実習」では4年間の学びを統合し、複数受け持ちや外国人医療、医療チームでの協力、について実践の中から学ぶ。

さらに学部24年生を対象とした「実践看護英語」を自由選択科目として開講している。ネイティブスピーカーの講師や留学生とともに異文化看護について英語で学ぶ。英語によるコミュニケーションを通じて、異文化およびグローバル社会への興味関心を喚起すると共に、看護職としての自己学習課題の発見、生涯学習の動機付けにつながるよう指導を行っている。

また「卒業研究」では留学生を対象とした日本での病院受診時の体験調査や病院の看護師を対象とした外国人患者対応に必要な研修内容について調査した。2015年のネパールでの地震後災害救援活動にあたった看護師の方12名にインタビューを行い、看護師の活動や今後の課題についてまとめた学生は2017年世界看護科学学会で口演し、英文誌に投稿中である。

2) 大学院教育

共通科目では「看護研究方法論(国際比較研究)」および「国際看護研究方法論」を担当している。「看護研究方法論」は主に国際比較研究の方法について講義や論文のクリティークを行っている。「国際看護研究方法論」は、英語によるプレゼンの練習、研究計画書の作成方法を講義と学生のプレゼンによるディスカッション形式で行っている。

(4) 教育方針

人間開発学 Human Development Studies の視点に立ち、グローバル化する社会の中で日本人看護職として国内外で役割を発揮できる人材の育成を目標としている。また、アカデミックな場における英語によるプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力の強化に取り組んでいる。研究領域としては、グローバルな視点から、成人期から老年期の健康問題の看護およびヘルスケアシステムの改善についての研究を中心として行っている。

(5) 臨床活動および学外活動

8月には海外研修としてシアトルワシントン大学病院の見学、日系老健施設での実習、ボランティア活動、シアトル大学訪問などを行っている。

(6) 研究業績

原著

1. 近藤暁子. A 大学のアジアを中心とした留学生の医療機関受診体験について Web 調査より お茶の水醫學雑誌. 2018.10: 66: 287-295

講演 口頭発表等

- 1. Ann Eckhardt, Akiko Kondo, Tomomi Oki, Amane Otaki, Shoko Yoshihara, Renaguli Abuliezi. Acute Coronary Syndrome Symptoms in Japan. Sigma Theta Tau International, 29th International Nursing Research Congress 2018.07.22 Melbourne, Australia
- 2. 小泉麻美, 吉田澄子, 金子美樹, 田口友美, 真部高子, 近藤暁子. インシデントレポート報告率と属人風度との関連. 第49回日本看護学会―看護管理―学術集会 2018.08.09 仙台
- 3. 近藤暁子, 曾根田ますみ, アブレス レナグリ. 留学生の病院受診体験. 日本国際看護学会第 2 回学術集会 2018.09.15 福島市
- 4. 栗原淳子, 近藤暁子. 看護師の精神疾患患者に対するスティグマ研究のための米国視察報告. 日本国際看護 学会第2回学術集会2018.09.15 福島市
- 5. Akiko KONDO, Ann ECKHARDT, Renaguli ABULIEZI, Tomomi OKI, Amane OTAKI. Comparison of Perceived Control in Patients with Acute Coronary Syndrome in Japan and the US—A Pilot Study—. 33rd Academic Conference of Japan Association for International Health 2018.12.01 Tokyo
- 6. Renaguli ABULIEZ, Akiko KONDO. Difficulties experienced by foreign nurse/foreign nurse candidates who are working in Japan: a literature review. 33rd Academic Conference of Japan Association for International Health 2018.12.02 Tokyo
- 7. Akiko Kondo. Medical experience of foreign students in Japan from a Web Survey. 38th Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2018.12.15 Matsuyama
- 8. Junko Kurihara and Akiko Kondo. A literature review of factors related to nurses' stigmatization of patients with schizophrenia. 38th Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science 2018.12.16 Matsuyama

看護システムマネジメント学

Nursing System Management

准教授: 佐藤 可奈 助 教: 廣山 奈津子 大学院生(博士後期課程):

山口 さおり、折見 隆広、岩﨑 弓子

大学院生(5年一貫制博士課程):

山縣 千尋、那須 佳津美、奥村 朱美、森 陽子、西川 裕理、大河原 啓文、

樋口 朝霞

事務補佐員: 日置 章子

(1) 分野概要

看護学の研究者・教育者・実践者が、看護学および関連領域の知見を活用して行う質の高い研究の成果を、社会構造や医療の提供体制および看護が果たしうる役割の変化を踏まえながら、国内外の学術コミュニティ・臨床現場に発信していくことを目指して研究・教育に取り組んでいます。

(2) 研究活動

大学院教育では、所属する大学院生が自律して主体的に研究を行う能力と学際・国際間のコミュニケーションを図る能力を身につけて、将来的に自らの研究成果を、研究者・教育者・実践者として国内外の学術コミュニティ・臨床現場に発信することができるようになることを目指して研究指導を行っています。そのため、個々の院生が、特定のテーマや方法論に縛られることなく、教員の支援を受け教員と協働しながら、自ら研究テーマを定め、そのテーマにふさわしい方法論や研究フィールドを見出して研究を進めていくことを重視しています。

(3) 教育方針

社会および医療の中での看護の位置づけを理解した上で、効果的な看護や医療の提供体制や質の保証に関する研究・実践についての知識を身につけ、専門職である看護職として研究・実践に取り組む能力を育成することを目指して教育に取り組んでいます。

1)学部教育

- 1. 学部 1 年生を対象として「看護の統合と実践 I 」を、学部 4 年生を対象として、「看護の統合と実践 II 」、「看護の統合と実践実習 I \cdot II 」を担当しています。いずれの科目においても、社会における看護の立ち位置を意識しながら専門職として主体的に学習する能力の育成を重視しています。
- 2. 卒業論文では4名の学生を担当しています。学生の関心に応じて自由にテーマを設定しつつ、研究の一連のプロセスを経験できるようにしています。

2)大学院教育

1. 「看護管理学特論」,「看護政策学特論」,「看護学研究法特論 (一部)」,「看護研究方法論 (グランデッドセオリー:一部)」,「看護システムマネジメント学特論 B」,「看護システムマネジメント学特論」を担当しています。 2. 所属大学院生が,自律して主体的に研究を行う能力と卓越したコミュニケーション能力によって必要に応じて学際的・国際的な連携を取りつつ,国内外の研究成果を読み解くと同時に,自らの研究成果を国内外に発信するこ とによって、ヘルスケアの質の向上に寄与することができる看護学の研究者・教育者・看護管理者となることができるように、研究環境を整え、教員・大学院生が協働する形で研究に取り組んでいます。そのため、大学院生が特定のテーマや方法論に縛られず、各自が研究者・教育者・看護管理者としてテーマを明確に定め、そのテーマにふさわしい方法論や研究フィールドで研究を実施することを重視しています。

(4) 研究業績

原著

- 1. Maki Saito, Noriko Okubo, Aya Tezuka, Fumi Odagaki, Natsuko Hiroyama, Junko Misumi. Difficulties During Pregnancy for Foreign Resident Women in Japan Journal of Japanese Society for International Nursing. 2018.06; 1(1); 1-12
- 2. Akemi Okumura-Hiroshige, Hiroki Fukahori, Sachiko Yoshioka, Miyoko Kuwata, Midori Nishiyama, Kaori Takamichi. Development of the End-of-Life Care Nursing Attitude Scale for Japanese Geriatrics. J Hosp Palliat Nurs. 2018.06; 20(3); 272-278
- 3. 比佐加奈子, 角川綾菜, 中西愛海, 廣山奈津子, 岩崎弓子, 山縣千尋, 小笹由香, 深堀浩樹. 調査報告 分娩後出血のリスク因子のエビデンスの提示に対する臨床看護職の評価 Evidence Based Practice の促進を目指した調査 看護管理. 2018.08; 28(8); 694-701

総説

- 1. 小林桃子, 佐藤可奈, 原田奈穂子, 足立彩花, 深堀浩樹. 米国在住の日本人看護職者の留学の理由と準備: インターネットによる横断的調査 お茶の水看護学雑誌. 2018.03; 12(1/2); 16-24
- 2. Nishikawa Y, Fukahori H, Ota E, Mizuno A, Hiroyama N, Miyashita M, Yoneoka D, Kwong JSW. Advance care planning for heart failure Cochrane Database of Systematic Reviews 2018. 2018.05;
- 3. 瀬戸 菜月, 川崎 翔太, 前田 夏咲, 西川 裕理, 山縣 千尋, 戸田 あゆみ, 廣山 奈津子, 長尾 祥子, 田村 貴子, 深堀 浩樹. Evidence Based Practice のための入院患者へのせん妄ケアに関する文献検討 看護技術. 2018.05; 64(6); 81-87
- 4. 山縣千尋, 西川裕理, 奥村朱美, 那須佳津美, 深堀浩樹. 【老年医学 (下)-基礎・臨床研究の最新動向-】 老年 看護学 さまざまな健康状態に 応じた高齢者の看護 日本臨床. 2018.08; 76 増刊 7; 711-716
- 5. 山縣千尋, 廣岡佳代, 菅野雄介, 田口敦子, 松本佐知子, 宮下光令, 深堀浩樹. 高齢者ケア施設における エンド・オブ・ライフ・ケアの Integrated Care Pathways に関する介入・実装研究 スコーピングレビュー Palliative Care Research . 2018.12; 13(4); 313-327

|講演 | 口頭発表等|

- 1. 山縣千尋, 深堀浩樹, 廣岡佳代, 菅野雄介, 田口敦子, 松本佐知子, 宮下光令. 高齢者ケア施設におけるエンド・オブ・ライフ・ケアの Integrated Care Pathways に関する介入・実装研究 スコーピングレビュー. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会 2018.06.15
- 2. Akemi Okumura-Hiroshige, Hiroki Fukahori, Sachiko Yoshioka, Miyoko Kuwata, Midori Nishiyama, Kaori Takamichi. Effect of an End of Life Nursing Education Program on the Attitudes of Clinical Nurses Caring for Older Adults in Japan". 70th The Gerontological Society of America Annual Scientific Meeting 2018.11.16 Boston

高齢社会看護ケア開発学

Gerontological Nursing and Care System Development

教授 緒方 泰子

助教 湯本 淑江

特任助教 森岡 典子(H30.10~助教)

特任講師 前田 留美(看護キャリアパスウェイ教育研究センター) 特任助教 太田沙紀子(看護キャリアパスウェイ教育研究センター)

大学院生 博士課程(5年一貫制)

杉本 健太郎 (H30.3 修了)

石井 典子

佐々木美樹

長井 聡子

高田 聖果

木田 亮平

大学院生 博士課程(後期) 岩﨑 孝子(H30.3 修了)

技術補佐員 藤波 景子

事務補佐員 尾張 景子(看護キャリアパスウェイ教育研究センター)

事務補佐員 神内 祐子

(1) 分野概要

高齢社会を迎え、家族を含む高齢者へのより高度で専門的な看護の実践方法(個へのアプローチ)に加え、高齢者への看護・ケアを社会の仕組みにどう位置づけていくか(社会システムへのアプローチ)といったことが求められています。後者には、対象者のニーズに応えていくためのケアマネジメントや看護管理、ケアシステムの開発が含まれます。高齢社会看護ケア開発学では、高齢社会を生きる人々を支える看護・ケアに関して、微視的・巨視的視点を駆使し、新しい学問及び専門領域として高齢者への看護学を確立していくため、また、国内外の動向をふまえリーダーシップを発揮できるような人材養成のために、学際的・国際的な教育研究活動の推進を目指しています。

(2) 研究活動

- 1. 高齢社会を支える看護・ケアシステムに関する研究
- 2. 看護ケアの質に関する研究
- 3. 看護管理学に関する研究
- 4. 望ましいアウトカムを達成しうる健康的な職場環境に関する研究 など

(3) 教育活動

学部学生への教育では、高齢者の心身・社会経済的な変化や老年期に発症しやすい健康・機能障害等の観点から 老年期にある対象の理解、アセスメント技術、高齢者へのリハビリテーションの概念や理論を学ぶ機会を提供し ています。また、施設実習を通じて理論と実践を統合し看護援助を創造していく知識・技術の基盤づくりを行っています。さらに、学生個々の研究疑問にもとづく卒業論文作成を通じて、既存の方法にとらわれず、新たな方法 論の開発につながるような、専門性の高いあるいは学際的な観点からの研究機会を提供しています。

大学院では、研究方法を理解し実践できるよう、高齢者への看護・ケアや研究方法に関する英文書籍の輪読、研究法の演習を行い、関連分野の基礎知識と最新知識を研究に反映できるよう国内外の研究論文の抄読を行っています。各学生の研究テーマに応じた教育・支援により、高齢社会看護ケア開発学といった領域において、国内外の研究を牽引していけるような研究者養成を目指しています。

(4) 研究業績

原著

- 1. Ota S, Mogushi K, Hirai A, Niimura Y, Tanaka H. Improvements in diabetic patients' outcomes in a clinical decision support system. European Journal for Biomedical Informatics. 2018.01; 14(1); 18-25
- 2. Ota S, Kudo K, Taguchi K, Ihori M, Yoshie S, Yamamoto T, Sudoh O, Tsuji T, Iijima K. Development of a gateway for interoperability in community-based care: An empirical study. Technology and Health Care. 2018.03; 26(1); 57-67
- 3. 杉田 由加里, 石丸 美奈, 松下 光子, 石川 麻衣, 井出 成美, 緒方 泰子. 保健所保健師の業務研究への取組みに 関する実態調査 千葉大学大学院看護学研究科紀要. 2018.03; (40); 27-34
- 4. Itoh S, Hikichi H, Murayama H, Ishimaru M, Ogata Y, Yasunaga H. Association between advanced care management and progression of care need level in long-term care recipients: retrospective cohort study. JMIR Aging. 2018.07; 1(2); e11117
- 5. 佐々木 美樹, 湯本 淑江, 森岡 典子, 米倉 佑貴, 上野 治香, 緒方 泰子. 看護師長のリーダーシップとスタッフ 看護師のエンパワーメントの関係 文献検討 日本医療・病院管理学会誌. 2018.07; 55(3); 133-142
- 6. Yasuko Ogata, Miki Sasaki, Yoshie Yumoto, Yuki Yonekura, Midori Nagano, Katsuya Kanda. Reliability and validity of the practice environment scale of the nursing work index for Japanese hospital nurses. Nursing Open. 2018.07; 5(3); 362-369
- 7. Noriko Morioka, Jun Tomio, Toshikazu Seto, Yoshie Yumoto, Yasuko Ogata, Yasuki Kobayashi. Association between local-level resources for home care and home deaths: A nationwide spatial analysis in Japan. PLoS ONE. 2018.09; 13(8); e0201649
- 8. 平谷 七美, 森岡 典子, 佐々木 美樹, 湯本 淑江, 緒方 泰子. 介護保険施設における身体拘束実施の施設要因及 び各都道府県の身体拘束実施割合の比較 日本看護評価学会誌. 2018.12; 8(1); 11-19

総説

- 1. 長井聡子, 湯本淑江, 森岡典子, 緒方泰子. 中堅看護師の看護キャリアレディネス尺度の開発: 高齢化社会を支える看護職の量的確保と医療の質向上に向けて 公益財団法人 政策医療振興財団 研究助成事業報告書 (平成 29 年度). 2018; 177-184
- 2. 前田 留美. ID×課題解決 インストラクショナルデザインを活用した教育プログラム開発 学習を支援する方法論「インストラクショナルデザイン(ID)とは」 2018.01; 28(1); 64-67
- 3. 前田 留美. ID ×課題解決 インストラクショナルデザインを活用した教育プログラム開発 (第 1 回) 学習を支援する方法論 「インストラクショナルデザイン (ID)」とは 看護管理. 2018.01; 28(1); 64-67
- 4. 前田 留美. ID×課題解決 インストラクショナルデザインを活用した教育プログラム開発 (第 2 回) 教育プログラムの「出口」と「入口」 看護管理. 2018.02; 28(2); 170-173
- 5. 前田 留美. ID ×課題解決 インストラクショナルデザインを活用した教育プログラム開発 (第3回) テスト の作成と課題分析 学習者は今どこにいるのか、「出口」に到達するために何を・どれぐらい学ぶのか 看護 管理. 2018.03; 28(3); 260-264
- 6. 前田 留美, 山下 直美. ID ×課題解決 インストラクショナルデザインを活用した教育プログラム開発 (第 4 回) 「教育」が解決できる課題は何か? 現状分析から教育ニーズを見極め, 学習目標を設定しよう 看護管理. 2018.04; 28(4); 364-368

- 7. 前田 留美, 山下 直美. ID ×課題解決 インストラクショナルデザインを活用した教育プログラム開発 (第 5 回) 効果的·効率よく·魅力ある方法で, 学習目標にたどり着こう 学習者分析と課題分析 看護管理. 2018.05; 28(5); 438-442
- 8. 緒方 泰子. 医療安全に学ぶ働き方改革 Healthy Work Environment が働き方に及ぼす影響 安全医学. 2018.05; 15(増刊号); 39
- 9. 前田 留美, 山下 直美. ID ×課題解決 インストラクショナルデザインを活用した教育プログラム開発 (第 6 回) 「やらされる研修」「やりっ放しの研修」にならないために ARCS 動機づけモデルと研修後の形成的 評価 看護管理. 2018.06; 28(6); 538-542
- 10. 緒方 泰子. 【多様な「働き方」とメンタルヘルス】 マグネットホスピタルの特性からみた看護職をひきつ ける職場環境 産業精神保健. 2018.06; 26(特別号); 13-17
- 11. 殿川 真弥, 前田 留美. ID ×課題解決 インストラクショナルデザインを活用した教育プログラム開発 (第7回) 乳腺炎のケアを習得するための教育プログラムの作成 看護管理. 2018.07; 28(7); 646-649
- 12. 松田 美智代, 前田 留美. ID ×課題解決 インストラクショナルデザインを活用した教育プログラム開発 (第8回) 研修での学びが実践で活かされ続けるための工夫 カンファレンスでのファシリテーションスキルの 習得を目的とした研修を通して 看護管理. 2018.08; 28(8); 732-736
- 13. 前田 留美. ID×課題解決 インストラクショナルデザインを活用した教育プログラム開発 (第 9 回) 「ID を取り入れた研修設計」に取り組んでぶつかった壁を越えるヒント 看護管理. 2018.09; 28(9); 844-848
- 14. 前田 留美. ID ×課題解決 インストラクショナルデザインを活用した教育プログラム開発 (第 10 回)(最終 回)「研修でやったはずなのに現場で使えない」をなくすために、看護管理者ができること 看護管理. 2018.10; 28(10); 926-930

[講演 口頭発表等]

- 1. Nagano M., Ogata Y., Ikeda M., Tsukada K., Tokunaga K., Iida S.. Risk factors living with an ostomy from rectal cancer based on peristomal erosion. WOUND REPAIR AND REGENERATION 2018
- 2. 井上玲子, 上別府圭子, 小林京子, 前田留美, 柴田映子, 川 勝和子. 小児がん看護の専門性向上をめざした看護教育プログラムの試み. 第32回日本がん看護学会学術集会 2018.02.03 千葉県
- 3. 小濱京子, 丸光惠, 前田留美. 閉経前に診断を受けた子宮頸がん・子宮体がん患者の治療後の倦怠感の特徴とマネジメントの実態. 第32回日本がん看護学会学術集会2018.02.03千葉県
- 4. 長井聡子、湯本淑江、大河原知嘉子、森岡典子、緒方泰子. 中堅看護師のワークエンゲイジメントを高める 要因の傾向 —インタビュー調査より—. 第8回 日本看護評価学会学術集会 2018.03.06 東京都
- 5. 鈴木 詩織, 湯本 淑江, 高田 聖果, 長井 聡子, 森岡 典子, 緒方 泰子. 重度認知症高齢者における終末を見据えた精神的苦痛緩和ケアの文献レビュー. 第7回日本看護評価学会学術集会 2018.03.06 東京
- 6. 緒方泰子, 前田留美, 太田沙紀子, 本田彰子, 重光直之. 看護の職場におけるコミュニティシップとは その 特徴と醸成の鍵について考える. 第8回日本看護評価学会学術集会 2018.03.06 東京都
- 7. W. George Kernohan, Yoshie Yumoto, Noriko Morioka, Yasuko Ogata. Tokyo vs Belfast: comparisons in the care of people with advanced dementia . Dementia: Transforming the Journey Prevention, Treatment and Quality of Life 2018.05.17 Dublin
- 8. 前田留美. 看護現任教育におけるシミュレーション教育の可能性と課題. 日本看護シミュレーションラーニング学会キックオフシンポジウム 2018.05.26 東京
- 9. 緒方泰子. Healthy Work Environment が働き方に及ぼす影響. 第 16 回日本臨床医学リスクマネジメント学 会学術集会 2018.05.26 東京
- 10. 湯本淑江, George Kernohan, 緒方泰子, 森岡典子. 認知症終末期ケアの考察ー北アイルランドの取り組みから一. 日本老年看護学会第 23 回学術集会 2018.06.24 久留米
- 11. 友滝 愛, 横田 慎一郎, 岩穴口 孝, 村岡 修子, 宮原 真紀, 伊藤 沙紀子, 他. 臨床看護師の看護研究の実施に関する現状と課題: a scoping review. 第 19 回日本医療情報学会看護学術大会 2018.07.06 高知

- 12. 伊藤 沙紀子. 看護情報学 Up-to-Date: 医療・看護情報担当者の人材育成 アメリカ医療情報学会の取組み. 第 19 回日本医療情報学会看護学術大会 2018.07.07 高知
- 13. 杉田由加里, 緒方泰子, 石丸美奈, 田中美延里, 石川麻衣, 松下光子, 藤木美恵子, 土屋裕子. 自治体のミドルマネジャー保健師の役割行動指針案の内容的妥当性の検討. 日本地域看護学会第 21 回学術集会 2018.08.11 長良川国際会議場
- 14. 前田留美, 太田沙紀子, 本田彰子, 緒方泰子. 実地指導者 · 教育担当者のモチベーション維持と向上ー看護管理者からの臨床看護教育者支援を考える. 第22回日本看護管理学会学術集会 2018.08.24 神戸市
- 15. 緒方泰子, 湯本淑江, 森岡典子, 武村雪絵, 西岡みどり, 武富貴久子, 田中理子, 米倉佑貴, 田中幸子, 網中眞由美. 看護職の Healthy Work Environment 特性の解明に向けた前向き研究(第1報): ベースライン調査. 第22回日本看護管理学会学術集会 2018.08.25 神戸ポートピアホテル、神戸国際会議場
- 16. Seira Takada, Yoshie Yumoto, Noriko Morioka, Yasuko Ogata. The Components of the Advance Care Planning Process for People with Dementia in a Facility-based Setting: A Scoping Review. Aging & Society: Eighth Interdisciplinary Conference 2018.09.19 Tokyo
- 17. 大河原知嘉子,森岡典子,緒方泰子. 訪問看護事業所の規模別にみた教育体制の実態-東京都の訪問看護事業所における研修内容に着目して-. 第4回日本混合研究法学会年次大会 2018.09.30 千葉県
- 18. Itoh S, Tan HP, Kudo K, Ihori M, Sudoh O, Ogata Y. Comparison of work burden on nursing care providers with and without a sensing system: an empirical study. 7th International Conference on Global Telehealth 2018.10.10 Colombo, Sri Lanka
- 19. Itoh S, Sandoval FA, Nomura S, Ishimaru M, Ogata Y, Yasunaga H. Practice patterns and clinical outcomes with advanced and conventional care management in community-based care: a classification and regression tree (CART) analysis. Asia-Pacific Association for Medical Informatics (APAMI) 2018.10.11 Colombo, Sri Lanka
- 20. 木田亮平, 戸ヶ里泰典, 湯本淑江, 森岡典子, 緒方泰子. 女性看護師の家庭役割の有無における上司および同僚からの職場ソーシャルサポートとバーンアウトとの関連. 第 56 回 日本医療・病院管理学会学術総会 2018.10.27 郡山市
- 21. 小野寺優芽, 森岡典子, 木田亮平, 佐々木美樹, 雨宮輝美, 湯本淑江, 緒方泰子. 摂食・嚥下障害のある高齢患者への食事介助における看護師の経験年数による観察項目の違い. 第 56 回日本医療・病院管理学会学術総会2018.10.27 郡山
- 22. 森岡典子, 大久保豪, 湯本淑江, 緒方泰子. 全国の訪問看護事業所における研修体制と職員数増減率の関連 ~ パネルデータを用いた分析 ~. 第 56 回日本医療 · 病院管理学会学術総会 2018.10.27 郡山
- 23. 長井聡子, 森岡典子, 湯本淑江, 山本武志, 緒方泰子. 看護スタッフへのインタビュー内容にもとづく Work Engagement(WE) の先行要因の検討. 第 56 回 日本医療・病院管理学会学術総会 2018.10.27 福島県
- 24. 緒方泰子, 森岡典子, 湯本淑江, 武村雪絵, 西岡みどり, 武冨貴久子, 田中理子, 米倉佑貴, 田中幸子, 網中眞由美. 看護職の Healthy Work Environment 特性の解明に向けた前向き研究 (第2報) : 2016-2017 年の調査より. 第56回日本医療・病院管理学会学術総会 2018.10.27 郡山
- 25. 西岡みどり, 網中眞由美, 緒方泰子. スタッフ看護師のペットと健康、バーンアウト:看護職の Healthy Work Environment 特性の解明に向けた前向き研究 (第2報). 第56回日本医療・病院管理学会学術総会 2018.10.27 郡山
- 26. 西岡みどり, 網中眞由美, 米倉佑貴, 緒方泰子. ペットとの生活は看護師の健康習慣やバーンアウトと関連するか?. 第 56 回日本医療 · 病院管理学会学術総会 2018.10.27 郡山
- 27. 内藤優美, 高田大輔, 原広司, 田中将之, 池田俊也, 寺崎仁, 上 條由美, 廣瀬昌博, 白髪昌世, 川渕孝一, 緒方泰子, 勝山貴美子, 今中雄一. 医療・病院管理におけるコン ピテンシーの枠組み構築の試み (1). 第 56 回日本医療・病院管理学会学術総会 2018.10.27 郡山
- 28. 原広司, 高田大輔, 内藤優美, 田中将之, 池田俊也, 寺崎仁, 上 條由美, 廣瀬昌博, 白髪昌世, 川渕孝一, 緒方泰子, 勝山貴美子, 今中雄一. 医療・病院管理におけるコンピテンシーの枠組み構築の試み (2). 第 56 回日本医療・病院管理学会学術総会 2018.10.27 郡山
- 29. 伊藤 沙紀子. 変わりゆく社会を支える循環器看護への期待: ビッグデータを活用した看護研究. 第 15 回日本循環器看護学会学術集会 2018.10.28 大阪

- 30. 森岡典子, 大河原知嘉子, 緒方泰子. 東京都の小規模訪問看護事業所における教育 · 研修の特徴 ~ テキストマイニングを用いた混合研究法 ~. 第 38 回日本看護科学学会学術集会 2018.12.15 愛媛
- 31. 杉田由加里, 緒方泰子, 石丸美奈, 田中美延里, 石川麻衣, 松下光子. 自治体のミドルマネジャー保健師の役割 行動指針の実用性の検討. 第 38 回日本看護科学学会学術集会 2018.12.16 ひめぎんホール (愛媛)

[Works]

1. (前田) 小児看護入門シリーズ DVD 教材 日本語版監修(共著) 第 1 巻 新生児、乳児と幼児/未就学児 第 2 巻 学童/思春期、青年期、教材、2010 年 04 月 - 現在

受賞

- 1. 日本地域看護学会第 21 回学術集会 優秀ポスター賞(緒方),日本地域看護学会,2018年 08 月
- 2. APAMI-Southampton Travel Award, APAMI 2018 (10th Biennial Conference of the Asia Pacific Association for Medical Informatics) (太田) , 2018 年 10 月
- 3. 優秀演題賞(オーラル賞)(森岡),第56回日本医療・病院管理学会学術総会,2018年10月

その他業績

1. 日本医療情報学会 海外学会発表奨励金, 2018 年 08 月 (日本医療情報学会による国際的な学術活動に対する奨励金)(太田)

[社会貢献活動]

- 1. 山梨県看護協会認定看護管理者研修セカンドレベル教育過程「医療経済論」講師 (森岡), 山梨県看護協会, 2013 年 08 月 08 日 現在
- 2. 日本看護評価学会学術集会 実行委員(湯本), 2014年03月-現在
- 3. 一般社団法人薬局共創未来人材育成機構 薬剤師生涯研修センター 企画実行委員 (前田), 2015 年 04 月 01 日 現在
- 4. 面接授業講師、放送大学(太田), 2015年10月01日-現在
- 5. 日本看護評価学会誌編集委員会委員(湯本), 2016年03月01日-現在
- 6. 日本小児血液・がん学会 長期フォローアップ・移行期医療委員会 委員(前田), 2016年08月01日-現在
- 7. 淑徳大学非常勤講師(緒方), 2016年11月01日-現在
- 8. 日本小児がん看護学会 編集委員、査読委員、政策委員(前田), 2017年01月01日-現在
- 9. 世話人、日本医療情報学会 看護部会 若手研究者育成 WG(太田), 2017年11月21日-現在
- 10. Committee member, American Medical Informatics Association (AMIA). WIA-Mentoring and Networking/Lifecycle Sub-Committee (太田) , 2018 年 01 月 01 日 現在
- 11. Reviewer, AIMA 2018 Annual Symposium (AMIA: American Medical Informatics Association) (太田) , 2018年01月19日 2018年02月20日
- 12. 研究員、筑波大学 医学医療系(太田), 2018年02月01日-2018年03月31日
- 13. 第8回 日本看護評価学会実行委員(木田), 日本看護評価学会, 2018年03月05日 2018年03月06日
- 14. 研究員、筑波大学 ヘルスサービス開発研究センター (太田), 2018年 04月 01日 現在
- 15. 専門性の高い看護師による在宅 · 介護サービスへの訪問支援の有り方検討委員会委員(緒方), 日本看護協会, 2018 年 08 月 20 日 2019 年 03 月 31 日
- 16. Reviewer, International Journal of Integrated Care (太田), 2018年09月12日 現在
- 17. 実行委員、日本医療情報学会 第 38 回医療情報学連合大会 (第 19 回日本医療情報学会学術大会)(太田), 2018 年 09 月 13 日 2018 年 11 月 25 日

- 18. Reviewer, ICIC19 (19th International Conference on Integrated Care) (太田) , 2018 年 09 月 27 日 2018 年 10 月 26 日
- 19. 社) 日本看護シミュレーションラーニング学会 理事・広報委員長・国際交流委員, 2018年11月01日 現在
- 20. 認定看護管理者教育課程セカンドレベル講師(緒方), 藍野大学 キャリア開発・研究センター, 2018 年 11 月 15 日 2019 年 02 月 22 日
- 21. Reviewer, MedInfo 2019 (17th World Congress on Medical and Health Informatics)(太田), 2018年11月21日 現在
- 22. 特別講師、聖路加国際大学(太田), 2018年11月26日-2019年01月21日
- 23. プログラム委員、日本医療情報学会 第 20 回日本医療情報学会看護学術大会(太田), 2018 年 12 月 01 日 現在
- 24. 日本医療 · 病院管理学会評議員、理事 (緒方)
- 25. 日本看護評価学会編集委員会委員長(緒方)
- 26. 公立大学法人首都大学東京健康福祉学部看護学科非常勤講師(緒方)
- 27. 全国社会福祉協議会全国社会福祉施設経営者協議会初級リスクマネジャー養成講座講師(緒方)
- 28. 江東区高齢者保健福祉計画 · 介護保険事業計画推進会議副委員長 (緒方)
- 29. 中野区区民公益活動推進協議会委員(緒方)
- 30. 東京慈恵会医科大学非常勤講師(緒方)
- 31. 日本医療 · 病院管理学会事業委員会委員長(緒方)

共同災害看護学専攻

Cooperative Doctoral Course in Disaster Nursing

教 授 佐々木 吉子 准教授 駒形 朋子 大学院生(博士 5 年一貫制) 小川 裕美子 濱舘 陽子

濱舘 陽子 田中 加苗 菅原 千賀子 宮前 繁 谷本 美保子

古屋(友藤) 裕美

小曽根 京子 鴨田 玲子 鐘ヶ江 紗里

藤村 麻衣子

(1) 分野概要

共同災害看護学専攻は、本学および高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、日本赤十字看護大学の5大学で共同運営する5年一貫制博士課程である。構成大学が蓄積してきた災害看護の経験や資源を活かして、災害看護の深奥を極め、人々の健康社会の構築と安全・安心・自立に寄与すること、また、災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決するために、学際的・国際的指導力を発揮できる「災害看護グローバルリーダー」を養成することを目標としている。本学共同災害看護学専攻では、主に大規模災害発生時の防災・減災に向けた備えと発災急性期における看護の役割に着目して、学内はもとより地域住民、行政、医師会、企業等と連携した大災害への備えをテーマに研究活動を展開している。

(2) 研究活動

「共同災害看護学専攻」では、首都圏直下型大地震やテロによる特殊災害に備えた防災 · 減災に着目し、発災に向けた平時からの備えと、発災急性期の災害支援活動における看護の役割の確立を目指し、研究に取り組んでいる。

現在、当研究室では、研究の一環として以下のような活動をしている。

- ①過去の大地震や特殊災害についての事例分析
- ②大災害時の防災 · 減災に向けた国内外の取り組み状況の把握(海外文献の抄読、国内 · 国際学会、海外での災害研修への参加)
- ③大災害発生時の自助・共助強化のための産官学連携に向けた情報収集や関係作り
- ④大学が属する2次医療圏内の災害拠点病院の取り組みについての情報収集(関連会議への参加、災害訓練参加 たど)
- ⑤大学が属する2次医療圏内の小規模医療施設における防災・減災の取り組み状況についての基礎調査
- ⑥災害時の医療系大学の学生ボランティアの活用とサポートに関するシステム構築に向けた基礎調査(他専攻との共同研究)
- ⑦大災害被災者へのメンタルケアに関する情報収集やスキルの学習
- ⑧特殊災害において医療者に必要な基礎知識・スキルの学習(緊急被ばく医療者現職者研修への参加など)

現在は基盤形成のための情報収集や基礎研究が中心であるが、今後、上記研究を発展させるとともに、院生が関心のある領域での研究に取り組めるようフィールド開拓するなど、関連機関との連携を図りながら研究室一丸となって取り組んでいる。

(3) 教育活動

「共同災害看護学専攻」は共同教育課程であり、学生はそれぞれの大学で開講される教科を相互履修し、各大学が強みとしている領域についての学習を深めている。

本学当専攻は、災害関連科目として「災害看護活動論 I 」および「災害看護活動論演習 I 」を担当している。災害看護活動論では、主に災害医療についての概論、災害急性期における看護実践や多職種との連携について学び、看護リーダーの役割について考察する。災害看護活動論演習 I では、国内外の災害医療・看護に関する文献講読とディスカッション、救護活動や遺族ケアなどのシミュレーション、災害専門施設の視察等を通して、実践力の向上や後方支援を含む看護リーダー能力の育成を図っている。

(4) 教育方針

将来、世界で求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、学際的 · 国際的指導力を発揮するグローバルリーダーとして、高度な実践能力を有した災害看護実践者並びに災害看護教育 · 研究者を養成することを目標としている。

授業は、LMS(Learnig Management System)による事前課題の提示や提出、講義資料の配信によって事前事後学習の効率化をはかり、また、TV 会議システムを使用しての遠隔講義、高性能シミュレーターや SimView を使用した遠隔シミュレーション演習など、IT の活用により複数の拠点から受講できるように工夫している。

研究指導については、5大学の教員による複数指導大切を敷いており、学生は自身の研究テーマに応じて、対面および遠隔システムを利用して充実した指導を受けることができるようになっている。

(5) 臨床活動および学外活動

様々な災害へ対応できる能力を養うため、先駆的に被ばく医療の教育・研究に携わってる弘前大学等との大学間の交流や、他の博士課程リーディングプログラムの大学等との交流をはかり、また近隣自治体の防災担当部門との意見交換、国会見学などのインターンシップ、東京駅近郊の自主防災組織の活動や災害訓練などに積極的に参加している。また国際学会・国内学会に積極的に参加し、学会発表や、他国の研究者・学生との英語による交流会も積極的に企画・参加しグローバルな視点を養うための工夫を諮っている。

(6) 研究業績

原著

1. 小寺直美, 末永陽子, 佐々木吉子. 平成 30 年 7 月豪雨における岡山県の初動調査報告 日本災害看護学会誌. 2018.01; 20(2); 92-101

総説

1. 宮前繁. 「私の IPE 体験」災害の多様な局面で必要となる多職種連携-災害時専門職連携演習から得た学び-保健医療福祉連携. 2018.03; March; 26-30

[講演 口頭発表等]

- 1. Sasaki Y. Disaster Nursing Care in Japan Health Care System. International Seminar on Disaster Nursing 2018 2018.04.22 Bekasi, Indonesia
- 2. 駒形朋子, 谷本美保子, 古屋裕美, 小曽根京子, 鴨田玲子, 佐々木吉子. 避難所運営ゲームを用いた災害対策教育の効果の検証ー東京都千代田区における帰宅困難者対策の一事例ー. 日本災害看護学会第 20 回年次大会2018.08.10 神戸市

- 3. 西川愛海、田中加苗、藤田さやか、稲垣真梨奈、宮前繁. 避難所における看護支援の評価 ~ 可視化できる リーダーを目指して ~. 日本災害看護学会第 20 回年次大会 2018.08.10 神戸市
- 4. 山村奈津子, 青山美弥子, 谷本美保子, 塚田祐子, 古屋裕美, 増野園恵. 応急仮設住宅における熱中症予防教室の実践と課題の検討. 日本災害看護学会第20回年次大会2018.08.10神戸市
- 5. 有坂めぐみ、岸野真由美、菅原千賀子、高村ゆ希、趙由紀美、中島麻紀、室矢明日香. 「災害看護の多様な教育におけるそれぞれの役割や活動 ~ 専門看護師、DNGL、国際緊急援助隊医療チームの経験から ~. 日本 災害看護学会第 20 回年次大会 2018.08.10 神戸国際会議場
- 6. 佐々木吉子, 小川裕美子, 宮前繁, 駒形朋子. 一般外来等看護師向け NBC 災害対応ミニ・レッスン教材の 内容の適切性に関するパイロットスタディ. 日本災害看護学会第 20 回年次大会 2018.08.11 神戸市
- 7. 佐々木康介、藤井直樹、宮前繁、周東美奈子、谷本美保子、中島麻紀、有坂めぐみ、神原咲子. 日本国内で発生したマスギャザリングの健康障害に関する文献検討. 日本災害看護学会第 20 回年次大会 2018.08.11 神戸市
- 8. 趙由紀美、寺田英子、大嶋理恵、西川愛海、Eni Nuraini Agustini、宮前繁. 災害看護の未来:次世代リーダーの挑戦. 日本災害看護学会第 20 回年次大会 2018.08.11 神戸市
- 9. Mihoko Tanimoto, Tomoko Komagata, Yoshiko Sasaki. A Descriptive study on disaster preparation of peripartum women with disaster experiences. The 14th Asia Pacific Conference of Disaster Medicine 2018.10.16 Kobe, Japan
- 10. Yumi Furuya, Yoshiko Sasaki, Tomoko Komagata. The expericeces of Occupational Health Nurses during Catastrophic Disasters . The 14th Asia Pacific Conference of Disaster Medicine 2018.10.17 Kobe, Japan
- 11. 駒形朋子、與座卓、山元恵子、海老根雅人、田中良. ラオス国ビエンチャン市近郊住民の健康状態の現状:5年間の健診データからの検討. 第 33 回日本国際保健医療学会学術集会 2018.12.01 東京、日本
- 12. 鐘ケ江紗里. カレン族難民キャンプにおける医療. 第33回日本国際保健医療学会2018.12.02東京都

受賞

1. 鐘ヶ江紗里「Global × Inclusive × leadership アイデアをカタチに」最優秀賞(チーム受賞). Women's Initiative for Summer Empowerment Program (WISE) 2018, 2018.08.26, 京都, 2018 年 08 月

その他業績

- 1. 内閣府主催第3回防災推進国民大会参加(濱舘陽子), 2018年10月 東北大学主催「災害と保健・医療推進フォーラム〜災害にあっても健康に乗り切る〜」に「企業の自主防災 組織と看護職が協働する帰宅困難者対策」をテーマとし、その取り組みについて発表した。災害時にも健康 に過ごすための備えや、他領域や保健医療間の連携について、参加者や講演者と意見交換を行った。
- 2. 文京学院大学「災害看護学」授業(小川裕美子、濱舘陽子、宮前繁、古屋裕美、藤村麻衣子), 2018 年 10 月 文京学院大学看護学科「災害看護学」の授業にて、5 コマ担当した。

[社会貢献活動]

- 1. 東京医科歯科大学医学部附属病院研究支援(佐々木吉子), 2005年10月-現在
- 2. 慶應義塾大学看護医療学部非常勤講師(佐々木吉子), 2008年04月-現在
- 3. 公益社団法人日本看護協会 災害支援ナース(佐々木吉子), 日本看護協会, 2010年 現在
- 4. 博士課程教育リーディングプログラム 災害看護グローバルリーダー養成プログラム プログラム担当者 (佐々木吉子), 2013 年 2019 年 03 月 31 日
- 5. ちよだモデルネットワーク(CMN)幹事(菅原千賀子 · 濱館陽子 · 小曽根京子), 千代田区社会福祉協議会 ちよだボランティアセンター, 千代田区社会福祉協議会かがやきプラザ, 2017 年 04 月 07 日 2018 年 03 月 06 日
- 6. English Parrot 英会話教室(駒形朋子), NPO 法人クリエイティブアクト, 2017 年 10 月 01 日 現在

- 7. JICA 国際緊急援助隊感染症チーム登録(看護師・疫学、公衆衛生対応班)(駒形朋子), 独立行政法人国際協力機構, 2017 年 10 月 06 日 現在
- 8. 株式会社アジア共同設計コンサルタントへの技術協力(駒形朋子、宮前繁、谷本美保子、古屋裕美、小曽根京子), 2017 年 12 月 25 日 現在
- 9. 株式会社アジア共同設計コンサルタントへの技術協力, 2017年12月25日 現在
- 10. 看護管理職の惨事ストレス研修講座 ボランティア(菅原千賀子、宮前繁), 筑波大学, 筑波大学東京キャンパス文京校舎, 2018 年 01 月 20 日
- 11. 平成 29 年度第五消防方面救助救急訓練(小川裕美子、濱舘陽子、田中加苗、宮前繁、菅原千賀子、谷本美保子、友藤裕美、小曽根京子、鴨田玲子), 本郷消防署, 2018 年 02 月 08 日
- 12. 東京駅周辺防災隣組第81回総会での机上訓練の実施(駒形朋子、小川裕美子、濱舘陽子、菅原千賀子、谷本美保子、友藤裕美、小曽根京子、鴨田玲子): 「発災3日目一時滞在施設における帰宅困難者対応ゲーム」、2018年02月22日
- 13. 東京 YWCA 2017 年度大規模災害対応研修会「避難所運営ゲーム」をとおして(佐々木吉子、駒形朋子、宮前繁、谷本美保子、友藤裕美、小曽根京子、鴨田玲子), 東京 YWCA 会館, 2018 年 03 月 06 日
- 14. 平成 29 年度千代田区帰宅困難者対応訓練参加(佐々木吉子, 濱舘陽子, 宮前繁, 友藤裕美, 小曽根京子), 東京駅周辺, 2018 年 03 月 09 日
- 15. パキスタン医科学研究所機能強化準備調査 外部アドバイザー (駒形朋子), 独立行政法人国際協力機構 (JICA)、株式会社アジア共同設計コンサルタント, パキスタン・イスラーム共和国、イスラマバード市, 2018 年 07 月 02 日 2018 年 07 月 07 日
- 16. 平成 30 年 7 月豪雨災害被災者緊急支援活動(岡山県倉敷市), 一般社団法人日本イスラエイド・サポート・ プログラム (JISP), 2018 年 07 月 09 日
- 17. 平成 30 年 7 月豪雨被災者緊急支援活動(小曽根京子), 認定特定非営利活動法人 AMDA, 岡山県, 2018 年 07 月 09 日 2018 年 07 月 11 日
- 18. 東京医科歯科大学「第 8 回 ADLS プロバイダーコース」 事務局(藤村麻衣子), 2018 年 07 月 21 日 2018 年 07 月 22 日
- 19. 平成 30 年 7 月豪雨 支援活動(災害医療コーディネートサポートチーム)(宮前繁), 日本災害医学会, 平成 30 年 7 月豪雨(広島県三原市, 医療救護調整本部), 2018 年 07 月 25 日 2018 年 07 月 28 日
- 20. 東京 YWCA 2018 年度大規模災害対応研修会 「大規模災害時の避難所における安全と救急」「避難所運営ゲーム」をとおして(佐々木吉子、駒形朋子、小曽根京子、鴨田玲子、鐘ヶ江紗里、藤村麻衣子)), 東京 YWCA, 東京 YWCA, 2018 年 07 月 31 日
- 21. 日本災害看護学会 第 20 回年次大会 実行委員(小川裕美子、菅原千賀子、宮前繁、鴨田玲子), 一般社団 法人 日本災害看護学会, 一般社団法人 日本災害看護学会 第 20 回年次大会, 神戸国際会議場, 2018 年 08 月 10 日 2018 年 08 月 11 日
- 22. 平成 30 年度東京駅周辺防災隣組・千代田区医師会・三菱地所株式会社との医療連携訓練への参加(佐々木吉子、濱舘陽子、古屋裕美、小曽根京子), 東京駅周辺, 2018 年 08 月 31 日
- 23. 岩手県陸前高田市地域子育て支援センター 育児相談(駒形朋子), 2018年09月06日
- 24. 第 17 回大阪千里メディカルラリー ボランティア (菅原千賀子、宮前繁、有坂めぐみ、中島麻紀、古屋裕美、鐘ヶ江紗里), 大阪済生会千里病院 千里救命救急センター, 大阪府吹田市エキスポシティ周辺, 2018 年 09 月 23 日
- 25. 東京医科歯科大学医学部附属病院 災害訓練への参加(新設エリアにおけるファシリテーター、評価者)(小川裕美子、宮前繁、藤村麻衣子), 東京医科歯科大学医学部附属病院 災害対策委員会, 2018 年 10 月 20 日
- 26. 東京医科歯科大学 JPTEC プロバイダーコース インストラクター (藤村麻衣子), 2018 年 10 月 21 日
- 27. 秋葉原駅周辺地区帰宅困難者対策地域協力会での机上訓練の実施(小川裕美子、濱舘陽子、菅原千賀子、宮前繁、古屋裕美、鴨田玲子):「発災3日目一時滞在施設における帰宅困難者対応ゲーム」, 秋葉原駅周辺, 2018年11月27日
- 28. 「職業人談話会」船橋市立坪井中学校(藤村麻衣子), 2018 年 12 月 06 日

Ⅲ.2018年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

2018年度保健衛生学科学士課程卒業論文題目一覧表

○学士(看護学) 55名

	氏 名	論
1	水落香帆	診療報酬改定による急性期病院の退院調整・退院支援への影響に関する文献検討
2	菅 原 玲 子	病棟看護師による患者への口腔ケアとその阻害要因に関する文献検討
3	福士彩貴	闘病記の内容分析による麻痺を伴う脳卒中患者の主観的身体イメージの経時的変化
4	宮田 ひなの	精神障がい者に対する DMT (Dance Movement Therapy)の効果に関する文献検討
5	中島亜美	入眠時に抱き枕やぬいぐるみを抱くことによる睡眠の質の変化
6	木田 結理香	看護学生同士の会話による臨地実習中のストレス対処法について ~Text Mining による分析~
7	大野 あずさ	精神科看護において看護師の抱える不全感
8	山本 千尋	炎症性腸疾患患者の自己管理行動に影響を与える要因と看護の関わり
9	木 村 静香	食事管理に関する教育経験が慢性腎不全患者の食欲と食事の楽しみに与える影響
10	藤原 みのり	植込み型補助人工心臓装着患者の抱える精神的苦痛と支援に関する文献検討
11	大場 玲香	看取り場所に影響する要因に関する文献レビュー -看取り場所の選択段階に着目して-
12	落合 めぐみ	視覚障害者が入院中に感じる困難と看護支援に関する文献検討
13	塩 月 凜	周手術期の褥瘡予防に関する看護師の認識と実践
14	松下ゆり	炎症性腸疾患患者と自己効力感の関連についての文献レビュー
15	森日乃子	失語症患者への介入や支援に対する評価ツールについての文献検討
16	伊藤 絢乃	看護師・医師関係に関連する看護師および病棟特性の検討
17	粕 川 花 琳	全国データを用いた地域包括ケア病棟の入棟前・退棟後の療養場所の分析 -都道府県比較と病院間比較-
18	清沢彩恵	The Person-centered Care Assessment Tool (P-CAT) 日本語版の開発
19	古代真穂	認知症高齢者の好みを通じてその人らしさを支える-介護施設でのインタビュー調査から-
20	平谷七美	介護保険施設における身体拘束実施の施設要因と都道府県間の比較
21	前川紗莉	施設入居認知症高齢者の食事に関連する困難を測る観察式ツールの比較検討
22	勘 座 佑 里	看護学生の入浴に対する意識、入浴習慣と健康状態の関係性
23	中西 朝香	医療系大学生の歯科保健活動の実態および認識とアプローチ方法の検討
24	原田祐衣	医療系大学生の食行動とストレスの関連性
25	石田 千明	特定保健指導対象者の行動変容維持に向けた保健師による支援
26	大 杉 成 美	職域での認知症サポーター養成の意義と行政保健師の役割
27	川崎紗英	メンタルヘルス不調者の復職支援における産業保健師の家族との関わり
28	坂 上 舞	地域のうつ病に関わる当事者グループの活動と専門職者の役割・今後期待される支援
29	野澤志穂	保健師による在日中国人母子への支援とその困難
30	梅田 裕美子	NICU・GCU 入院児の母親が母乳育児において抱える困難と看護師が行う支援

	氏	名	論 文 題 目
31	谷 水	綾 乃	産後1か月の母親が思う、退院支援として聞いておきたかった事柄について
32	九十カ	1 友理	麻酔を用いた無痛分娩に対する看護学生の考え
33	平 澤	春 菜	スタッフの妊娠・出産・育児を支える管理職の困難
34	山本	華乃子	栄養法別にみる産後 1 か月の母親が抱える授乳育児の悩み
35	江 守	梨 沙	1型糖尿病患児の学校生活における自己管理のための親による環境調整
36	酒 井	和 歌	看護師経験のある養護教諭による実践の特徴と困難
37	三ツオ	大 祥子	NICU に入院中の児をもつ父親への看護支援に関する文献検討
38	野村	はるか	食物アレルギー児の親に対する小児アレルギーエデュケーターの看護支援とその意図
39	岩 田	彩奈	重症心身障害児の反応に対する看護師の捉え方と実践
40	市来	舞 華	女子大学生の乳がん・子宮頸がんに対する知識と予防・早期発見行動
41	佐藤	美沙稀	ライフステージ別にみた知的障害者の家族支援に関する文献検討
42	炭谷	有 美	専門看護師の役割・実践に関する近年の研究動向の文献検討
43	夏目	華帆	看護師の離職および離職防止対策についての研究動向
44	磯田	真由香	看護学生の英語学習へのモチベーションとニーズ
45	上林	千 佳	外国人患者対応研修に関する看護師のニーズおよび参加意欲
46	黒 山	杏 奈	ハンセン病患者・回復者の社会復帰 外国と比較した日本の問題と課題
47	山 田	理 奈	開発途上国にて国際協力活動を行う看護師の抱える困難とその対応
48	工藤	里 紗	続柄別にみる家族介護者の負担の特徴
49	田上	奈 芳	神経難病患者の在宅人工呼吸器療法導入時の退院支援に関わる看護師が抱える困難
50	竹山	実 希	高齢糖尿病患者の病との共存に関する文献検討
51	津田	泰恵	高齢療養者の意思決定に関わる家族の困難感
52	永 津	絢 子	認知症独居高齢者の在宅移行支援で生じる課題と対応
53	伊藤	夏 海	手記から見る AYA 世代がん患者の苦悩と求められる支援
54	福田	菜都美	遺伝性腫瘍と診断された患者の苦悩と対処に関する文献検討
55	森山	美 樹	終末期を在宅で過ごしたがん患者の家族の訪問看護に対する評価

IV. 2018 年度大学院保健衛生学研究科博士課程 課題研究題目一覧表

2018年度大学院保健衛生学研究科博士(前期·後期)課程学位論文一覧表

○修士(看護学) 15名

	氏:	名	専 攻	指導教員	論 文 名	主査	副査	副査
1	本田	順子	看護先進科学専攻	佐々木 明子	看護における感情労働の心理的側面と仕事の資源・個人資 源に関する文献検討	近藤 暁子	柏木 聖代	森岡 典子
2	角田	紘 子	看護先進科学専攻	森田 久美子	学校におけるがん予防教育に関する文献的考察	田中 真琴	岡光 基子	山﨑 智子
3	川島	徹 治	看護先進科学専攻	田中 真琴	集中治療領域での終末期患者とその家族に対するイン フォームド・コンセントにおける看護師の実践に関する研 究	柏木 聖代	岡光 基子	森岡 典子
4	岩下	絵梨香	看護先進科学専攻	田中 真琴	集中治療室におけるエキスパート看護師による家族支援の 実践に関する文献検討	緒方 泰子	本田 彰子	矢郷 哲志
5	大脇	那 奈	看護先進科学専攻	田中 真琴	ICUにおけるせん妄患者をケアする看護師の困難感尺度の 開発	緒方 泰子	柏木 聖代	森田 久美子
6	平岩	千 明	看護先進科学専攻	(代) 柏木 聖代	精神症状が急性増悪した病人の家族の体験に関する文献検 討	佐々木 明子	岡光 基子	佐藤 可奈
7	坂 野	朋未	看護先進科学専攻	本田 彰子	家族事例検討が訪問看護師にもたらす家族看護実践の変化	大久保 功子	緒方 泰子	内堀 真弓
8	片岡	綾 華	看護先進科学専攻	山崎 智子	看護師のやりがいに関する文献検討	本田 彰子	佐藤 可奈	三隅 順子
9	大河原	啓文	看護先進科学専攻	佐藤 可奈	高齢者ケア施設から急性期病院への避けられる搬送や入院 を削減する看護師主導の介入:スコーピングレビュー	田中 真琴	佐々木 吉子	森田 久美子
10	樋口	朝霞	看護先進科学専攻	本田 彰子	非がんの慢性疾患をもつ高齢患者の医療処置や看護ケアと DNAR指示に関する看 護師の認識:心疾患を持つ高齢患者に関する仮想事例調査	佐々木 明子	田中 真琴	山﨑 智子
11	大河』	原文	看護先進科学専攻	森田 久美子	精神疾患をもつ人のアセスメント尺度に関する文献検討	柏木 聖代	佐藤 可奈	山﨑 智子
12	三村	祐美子	看護先進科学専攻	森田 久美子	認知症高齢者の受診に影響する要因に関する文献レビュー	緒方 秦子	本田 彰子	佐藤 可奈
13	染谷	彰	看護先進科学専攻	田中 真琴	半側空間無視を有する患者への介入に関する文献検討	佐々木 明子	近藤 暁子	矢郷 哲志
14	佐々木	美 樹	看護先進科学専攻	緒方 泰子	Multidimensional measure of leader-member exchange (LMX-MDM)日本語版の信頼性と妥当性の検討-看護師を対象 とした検証-	田中 真琴	森田 久美子	津田 紫緒
15	樺島	稔	看護先進科学専攻	柏木 聖代	乳幼児の夜泣きに対する両親の対処のプロセス	佐々木 吉子	大久保 功子	岡光 基子

課程博士

○博士(看護学) 3名

	氏	名	専 攻	指導教員	論 文 名	主 査	副査	副查
1	土肥	真奈	総合保健看護学 (健康教育学)	森田 久美子	Factors associated with depressive symptoms in patients with acute coronary syndrome undergoing percutaneous coronary intervention: A prospective cohort study	佐々木 吉子	柏木 聖代	森田 久美子
2	小田柿	ふみ	総合保健看護学 (リプロダクティブヘルス看護学)	大久保 功子	分娩期における産科医と助産師の協働尺度の開発	緒方泰子	大久保 功子	佐藤 可奈
3	野口	綾子	総合保健看護学 (先端侵襲緩和77看護学)	田中 真琴	Promoting a nursing team's ability to notice intent to communicate in lightly sedated mechanically ventilated patients in an intensive care unit: An action research study	佐々木 吉子	緒方 泰子	田中 真琴

課程博士

○博士(看護学) 1名

	氏 名	,	専 攻	指導教員	論	文	名	主 査	副查	副 查
4 57 40 40 41		11-		tr. + +7	Physical and social characteristics and support needs of adult female childhood cancer survivors who			佐々木 吉子	南 裕子 (高知県立大学)	藤原 武男 (東京医科世科大学)
1	田 中 加 苗 共同災害看護学		underwent hormone			(東京医科雷科大学)	岩﨑 弥生 (千葉大学)	片田 範子 (関西医科大学)		

論文博士

○博士(看護学) 1 名

	氏 名	 推薦教員	論	文	名	主	査.	副查		副	查
1	勝又里織		人工妊娠中絶における 一初期中絶における看			本田	彰子	柏木 聖代	<i>></i>	大久保	功子

V.委員会委員名簿

2018年度各種委員会等メンバー

〔大学院〕 〔学部〕

生体検査科学系教授会議長:窪田 検査技術学専攻主任:星

共同災害看護学専攻長:佐々木(吉)

☆責任者 ○副責任者

			☆責任者 ○副責任者					
〔大学院教育委員会〕		☆緒方、佐々木(吉)、大久保 (本田)						
〔学部教育委員会〕		☆沢辺、田中、田上、森田、角、星(本田、窪田)					
	【看】	○佐々木(明)、近藤、田中、駒形、津田						
〔国際教育・研究センター〕	【検】	☆沢辺、笹野、鈴木、齋藤						
〔タイのチュランロンコン大学受入 TF〕	【検】	☆笹野、沢辺、加藤、副島、馬渕、須藤						
〔専門看護師検討WG〕	【看】	☆田中、緒方、大久保、本田、(柏木)、『						
(分) 7自吸用例外的 (()	【看】							
〔医歯学融合教育委員会〕	【検】	佐藤(科目担当)、廣山 角 〔「チーム医療入門」シナリオ作成 TF 齋藤、加藤、副島〕						
		角 [『チーム医療人門』シナリオ作成 TF 齋藤、加藤、副島』 担当者なし						
〔スキルス・ラボ検討委員会〕	看】							
	【検】	角 						
〔学部カリキュラム委員会〕	【看】	☆佐々木(明)、大久保、近藤、田中、(柏	个人、綵田、佐藤					
	【検】	☆角、沢辺、窪田						
	【看】		隅、川上、大河原、廣山、津田、岡光、川					
〔実習・臨地実習担当委員会〕	F	本、矢郷、湯本、森岡、戸田						
	【検】	☆角、齋藤、新井、加藤、副島、赤座、	尸塚、沢辺					
〔インターンシップ委員会〕	【検】	☆伊藤、齋藤、馬渕、副島、加藤						
〔卒業研究委員会〕	【看】	☆山﨑、内堀、大河原、森岡、津田						
	【検】	☆星、鈴木、長、本間、馬渕、赤座						
〔進路指導委員会〕	【看】	☆山﨑、川本、近藤、内堀						
(严阳旧寺女兵云)	【検】	☆沢辺、戸塚、齋藤、本間、副島、長						
(国計划华禾昌人)	【看】	☆近藤、矢郷						
〔国試対策委員会〕	【検】	[模試担当] ☆新井、本間 (試験当日は全分野の助教)						
	【看】	☆内堀、廣山						
〔図書・広報委員〕	【検】	☆新井、長						
〔学級担当委員〕		【看】	【検】					
・1年生(30回生)		森田、矢郷	齋藤					
・ 2 年生(2 9 回生)		田中、大河原	新井					
・3年生(28回生)		近藤、内堀	赤澤					
・ 4 年生(2 7 回生)		山﨑、川本	角					
〔試験監督調整委員〕		岡光	馬渕					
「新入生オリエンテーション担当」		☆森田、矢郷、田中、田上、						
〔1年生保護者〕説明会担当〕		☆田上、森田、矢郷						
[3 年生保護者)説明会担当]		☆田上、近藤、内堀						
〔親睦会・会計〕	1	☆佐々木(明)、駒形、三隅、湯本	☆伊藤、馬渕、赤座、須藤					
〔保健衛生学科 FD 委員会〕	1	☆近藤、(柏木)、三隅	☆赤澤、鈴木					
[LAN・ホームページ担当 WG]	1	☆大河原、森岡、戸田	長、本間					
(1811, 4), 7), Aled MQ1	<u></u> 【看】	○田中、岡光、湯本、矢郷	X / 作回					
〔自己点検・評価委員会〕	1							
「八日日=華時がいでう	【検】	☆窪田、沢辺、角、笹野						
〔公開講座WG〕	【検】	☆新井、角、笹野、長、赤座 (当日は全						
〔競争的資金獲得検討委員会〕	【看】							
〔生体検査科学セミナー〕	【検】	☆伊藤、鈴木、加藤、赤座、馬淵、本間						
〔オープンキャンパス・受験生対策 WG〕	【看】		原、戸田(オープンキャンパス当日は全分野の助教)					
	【検】	☆角、沢辺、長、本間 、赤座、笹野、3						
〔総合実習ⅡWG〕(時限)	【看】	☆田上、山崎、内堀、大河原、湯本、川本、(小児 or 母性)						
〔看護部(医)保健衛生学科連携〕	【看】	☆本田、大久保、田上、山﨑						
〔医歯学附属病院研究支援〕	【看】	☆岡光、近藤、佐藤						
〔医学部附属病院連携〕	【検】	☆窪田、沢辺、戸塚、角、齋藤、新井、	大川、副島、加藤					

VI. 就職状況一覧表 (2019年3月卒業・修了者)

2019.5.1現在

(看護先進看護学・総合保健看護学・共同災害看護学)

			学	部	大学院			
	区分		 (看護	養学)	博士(前期)課程		博士	
			小計	合計	小計	合計	小計	合計
進学		本学	1	2			0	0
连子	本	学以外	1	2			0	U
	手=# 6年	本学	35				0	
	看護師	本学以外	13			/	1	
	但	呆健師	4				0	
就職	Д	力産師	0	53			0	5
小儿相似	助教(大学機関)		0	00			0	J
	助手(大学機関)		0			/	1	
	講師(大学機関)	0				2	
	その他		1				1	
その他(不明)				0				0
	合計			55				5

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科年報

2018年度

保健衛生学研究科教育委員

佐々木 明 子 委員長

戸 塚 実

齋 藤 やよい

本 田 彰 子

窪 田 哲 朗

伊 藤 南

佐々木 吉 子

発 行 2020年3月

編集・発行 東京医科歯科大学大学院

保健衛生学研究科教育委員会

http://www.tmd.ac.jp/faculties/health-care/index.html